

81
915

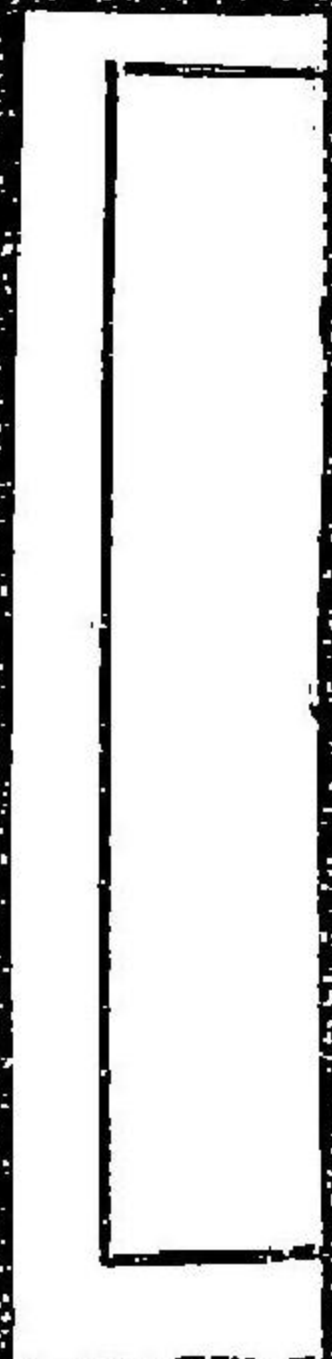
林

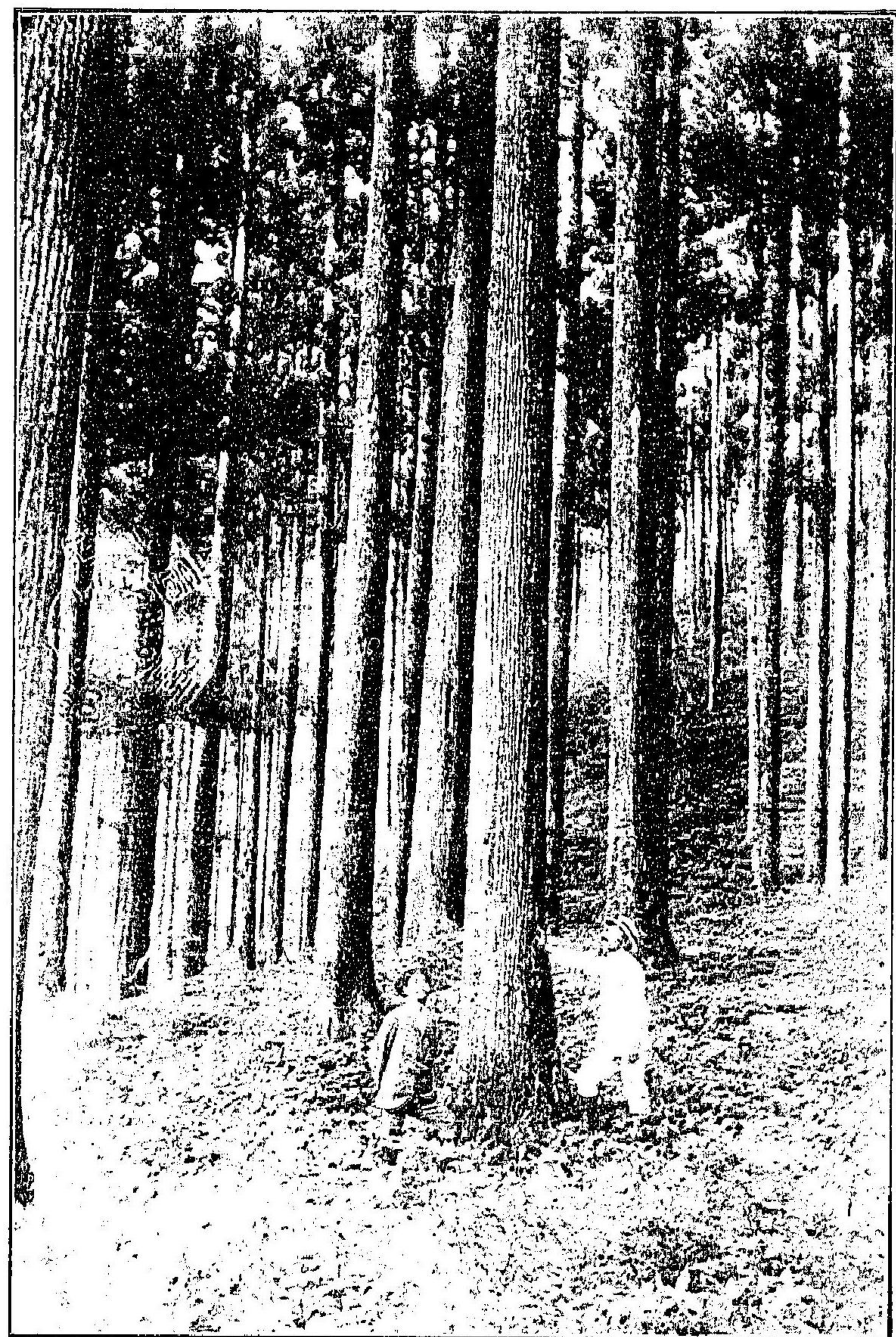
業

讀

本

全





(編者撮影)

大和國吉野郡大瀧村第一等杉林

言

今茲ニ予ガ林業讀本ト題シテ刊行スル一書ハ

豫テ本縣下ニ於テ講述シタルモノヲ蒐集シ少

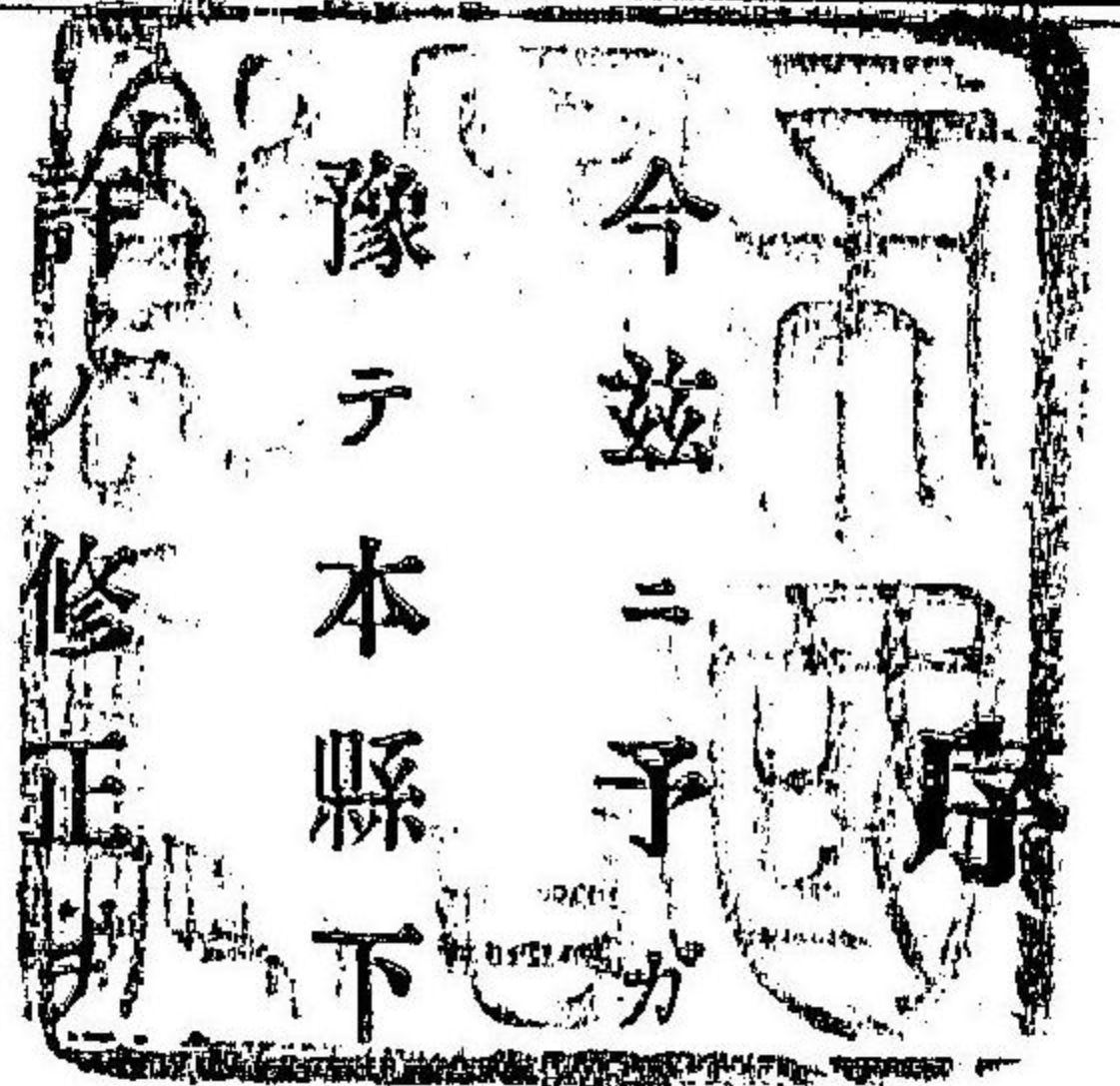
許ノ修正ヲ加ヘタルモノニ外ナラサルナリ元

來林業ニ關スル書冊ハ其種類少ナク且皆浩瀚

ニシテ短期講習用ニハ其程度高尙ニ失スルノ

憾アリ是レ予ガ近易簡單ヲ旨トシ更ニ本書ヲ

公ニセシ所以ナリ若シ夫レ尙林業ノ一般ヲ知



悉セント欲セバ本多林學博士著實用森林學ニ
就テ研究セラレントヲ

名古屋市寓居ニ於テ

明治三十六年孟夏

編者識ス

林業讀本

目次

第一	課	森林	一頁
第二	課	林業	三頁
第三	課	木材ノ効用	四頁
第四	課	土性	六頁
第五	課	林木ノ生長及ヒ生活	八頁
第六	課	森林帶	十頁
第七	課	本邦ニ於ケル主要ノ樹種	十三頁
第八	課	陰樹及ヒ陽樹	十五頁
第九	課	混淆林	十八頁
第十	課	經濟林	二十頁

第十一課	保安林	二十三頁
第十二課	魚付林	二十五頁
第十三課	氣候調和	二十六頁
第十四課	水源涵養	二十七頁
第十五課	平地及海岸ノ砂防	二十九頁
第十六課	衛生上ノ利益	三十頁
第十七課	精神上ノ影響	三十一頁
第十八課	天然造林法	三十二頁
第十九課	人工造林法	三十四頁
第二十課	植樹法ノ種類及得失	三十七頁
第二十一課	植樹上疎密ノ關係	三十九頁
第二十二課	森林作業法	四十頁

第二十三課	間伐(疎伐)	四十一頁
第二十四課	枝打+(枝卸)	四十三頁
第二十五課	林相ノ自然的變化	四十六頁
第二十六課	乱伐ノ害	四十九頁
第二十七課	下草採集ノ害	五十一頁
第二十八課	火災ノ豫防及消防法	五十三頁
第二十九課	風雪ノ害	五十五頁
第三十課	霜害	五十六頁
第三十一課	旱魃ノ害	六十頁
第三十二課	蟲害	六十一頁
第三十三課	獸害	六十三頁
第三十四課	黴菌ノ害	六十五頁

第三十五課	ボルドー液	六十七頁
第三十六課	森林ノ境界	七十頁
第三十七課	市町村林	七十一頁
其一	市町村	七十二頁
其二	市町村財政	七十二頁
其三	基本財産トシテノ森林	七十四頁
第三十八課	縣是トシテ森林ノ整理	七十六頁

附 錄

林業年中行事

林業讀本目次終

林業讀本

三溝謹平編纂

第一課 森林

森林トハ一定ノ土地ニ一定ノ樹木ノ生立シタルモノ
 ニシテ此土地即チ林地ト此樹木即チ林木トハ森林ニ
 缺クベカラザルニ要素ナリ而シテコレヲ御料林國有
 林部分林公有林社寺林及ビ私有林ノ六種ニ區分ス

- (一) 御料林トハ皇室ノ私有財産ニシテ大概世襲財産ニ編入シ畧民有林ト其性質ヲ同フス
 宮内省御料局ノ管理ニ屬ス
- (二) 國有林トハ政府ノ自營若クハ貸貸シスベキ直轄ノ官有資産ニシテ其所有權政府ニ在
 リ所謂官林ナルモノ是ナリ農商務省山林局ニ於テ管理ス
- (三) 部分林トハ一定ノ期限間官民各若干ノ出捐チナシコレヨリ收穫スル所ノ林産物チニ

者ノ間ニ分配スルモノヲ云フ其出捐ノ方法ニ至テハ或ハ官ヨリ土地ノ使用權ヲ出捐シ民ヨリ植栽養護ノ作爲ヲ出捐スルアリ或ハ官ヨリ植栽養護ノ作爲ヲ出捐シ民ヨリ土地ノ使用權ヲ出捐スルアリ而シテ此成立原因ヲ考究スルニ或ハ契約ニ依リテ成ルアリ或ハ官ノ強制的作爲ニ依リテ成ルアリ然レドモ其現ニ存在スルモノハ前者最モ多ク後者ヲ甚ダ稀ナリトス

サテ其分配ノ度合ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ厚薄ニヨリテ官二民八以上適宜ニコレテナスコトヲ得然レドモ現今最モ多ク行ハレタルモノハ三官七民ナリ

又其分配方法ハ或ハ成木ノ上立木ノ僅分配スルアリ或ハ伐木ノ際官民ニ於テ各評價人ヲ指定シ總計金額ヲ豫算シ此金額ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民ノ協議上適宜ニコレテ定ムルモノトス

(四) 公有林トハ公共團體ナル公法人ノ所有ニ屬スル森林ヲ指スモノニシテ假令ハ町村有ノ森林等ノ如キモノコレナリ

(五) 社寺林トハ社寺ナル私法人ノ所有ニ屬スル森林ヲ指スモノナリ夫ノ神官住職ノ私有ノモノヲ指スニアラズ

(六) 私有林トハ即チ一私人ノ所有ニ屬スル森林ヲ稱スルモノナリ

森林ハ造化ノ天産物ニシテ世界ヲ裝飾スル最大最美ノ彫刻物ナリ

第二課 林業

林業トハ森林ヲ仕立テテ直接又ハ間接ニコレテ吾人ノ需要ニ應ゼシムル處ノ作業ヲイフ而シテ此目的ハ林地ヲ力メテ便益ニ利用シ以テ特別ノ制限アルモノヲ除キ最大利益ヲ永久ニ保續セントスルニ在リ

往昔人智未ダ開ケズ人口少ナカリシ時代ニ於テハ陸地ノ大部分ハ森林ニシテ住民ハ隨意ニ其好ム所ノモノヲ取リシモ世ノ進ムニ從ヒテコレ等自然ノ産出ニ不足ヲ感ズルニ至リコ、ニ農業起リ開墾事業漸ク行ハレ從テ又木材ノ不足ヲ生シ終ニ殖林事業即チ林業ハ起ルニ至レリ而シテ農業商業等ノ進歩ニ連レテ林

業モ亦大ニ發達シ今日學術ノ形ヲナスニ至リシナリ

森林ハ百貨ノ府庫ニシテ農業ノ父母ナリ (西哲)
樹木有テ水ヲ湛ヘ水有テ藪稊ヲ生シ藪稊有テ牧畜ヲ養ヒ牧畜有テ肥料ヲ生シ肥料有テ麥ヲ生ズ (西諺)

第三課 木材ノ効用

木材ノ人世ニ有用ナルコトハ何人モ知ル所ニシテ家屋橋梁ノ建築船艦舟車ノ製造ヨリ日用器具ノ製作兼テ薪炭ノ消費ニ至ルマデ其用勝ゲテ數フベカラズ殊ニ鐵道其他各鐵山ニ要スル支柱又火熱ヲ要スル諸工業及ヒ吾人ガ朝夕ノ炊事自家用料等夥多ノ木材ヲ費ス此ノ如キ總テノ需要ヲ概算スルトキハ我國ニ在リ

テハ少クモ年々一億六千萬尺ノ木材ヲ要スベシ而シテ此材積ヲ得ルニハ年々五十萬町歩ノ森林ヲ盡ク伐採セザルベカラズ故ニ之ヲ無限ニ繼續スルニハ少クモ一千二百萬町歩ノ森林ヲ要スルナリ殊ニ近來ニ至リ學術ノ進歩ト共ニ木材ノ新用途亦大ニ開ケタリ即チ木材ノ纖維ヲ分解シテ紙ヲ製スルモノアリ或ハ糸ニ紡ギ布ニ織リ或ハ乾餾シテ木醋ヲ製シ或ハ之ヲ粘性ノ柔軟体ト化シ活字釦人造象牙等ヲ作り最近時ニ至リテハ木材ヨリ絹糸ヲ製シ酒ヲ釀造スルノ新法ヲ發明セシモノアリ人或ハ木材ガ彼ノ鐵ト石炭トノ爲ニ社界ニ於ケル需

要ノ範圍ヲ蠶食セラレツツアルヲ見テ直ニ森林ノ不
必要ヲ唱フルモノナキニシモアラズサレドモコレ唯
皮想ノ謬見タルニ過ギズ木材ノ用途ハ日々益々大ト
ナルベキヤ論ヲ俟タズ

十年ノ計ハホチ樹ルニアリ。(司馬溫公)

第四課 土 性

土性ハ地殻ノ主成分ニシテ同シク又地殻ノ分解シテ
生シタル物体ナリ而シテ土性ノ主成分ハ粘土砂土及
ビ石灰ニシテ此三物ノ外猶古キ植物ノ殘滓ヨリ生ジ
タル朽土ヨリ成ルモノナリ

砂ハ石英ヲ含ム岩石ノ分解セシモノ粘土ハ長石及ビ
雲母角閃石輝石等ノ分解セシモノ石灰ハ主トシテ石
灰岩ノ分解セシモノナリ故ニ山岳地方ニ於ケル土性
ハ其地下ニ在ル母岩ノ分解ヨリ成ルモ谷底又ハ平地
ノモノハ其上方ヨリ流下シ來ル堆積土ヨリ成ルモノ
多シ而シテ此三成分ハ直接ニ植物ノ養料トナルコト
ナク唯此物ノ存在スルガ爲ニ其土性ニ理學的ノ性質
ヲ具ヘシムルニアリトス
一般ニ林木ハ農作物ニ比スレバ化學的養分ニ關係ス
ルコト少シ故ニ化學上ノ性質ヨリ論スルトキハ林地
ハ最下等ノ地ニテ可ナリ是樹木ハ穀物野菜等ノ如ク

多量ノ肥料ヲ要セザルモノナレバナリ

第五課 林木ノ成長及生活

林木ノ生活ハ他ノ有機体ノ生活ト同シク已ニ存スル所ノ細胞ノ擴大及ビ新細胞ノ増加ニ依ルモノニシテ其周圍ヨリ生活ニ必要ナル物質ヲ攝取スルニ外ナラズ
葉ハ空氣中ヨリ炭酸瓦斯ヲ吸ヒ日光ノ助ケニヨリ炭素ヲ取り酸素ヲ分離シテ吐キ出ス働キナナス此作用ニ依リテ得タル炭素ハ根ヨリ吸ヒ上ゲタル水分ノ一部ト共ニ葉ノ中ニ於テ養分トナリ花ヲ開キ新芽ヲ生スル等必要ノ場所ニ送ラル而シテ根ハ其尖端ニ密生

セル根毛ヨリ養料ヲ吸收スルモノナレバ地中ニ存在スル養分ハ必ズ液体又ハ液体中ニ溶解スル物質若クハ根端ノ作用ニ依リテ液体トナシ得ベキモノナラサルベカラズ
サレバ葉及ビ根ハ林木ノ生活上最モ必要ナルモノニシテ樹木ハコレ等ノ作用ニ依リテ生長スルモノナリ故ニ森林ヨリ永久連續シテ多大ノ材積ヲ生産セシメント欲セバ其森林ニ不斷連續シテ即チ林地ニ成ルベク多クノ樹木ヲ備へ多クノ鬚根ヲ地下ニ送り伐木ノ爲メ一たび之ヲ失フユトアルモ直ニコトニ適當ナル成長機關ヲ造ラザルベカラズ然ラザレバ多數ノ肥料

ハ皆雜草其他ノ不用植物ノ爲ニ消費セララルルニ至ル
ベシ

第六課 森林帶

森林帶トハ同一ノ氣候ヲ好ム所ノ樹木同一帶ノ區域
内ニ蕃生シテ其異ナル氣候ヲ好ム樹林ト分離スルヲ
云フ

我國ノ森林帶ハ之ヲ別ナテ熱帶暖帶溫帶寒帶ノ四帶
トナスベシ

熱帶(又榕樹帶) 此帶ハ琉球ノ南半ヨリ八重山列島臺
灣及ビ其附屬島嶼及ビ小笠原島等ニ跨リ同溫線二十
一度以上ノ地ヲ領ス固有ノ樹種ハ「ココ」鐵蕉ソテ、蒲葵ビロ、榕樹フカサ、

竹タケ、柏ヒノキ、蒲桃モモ、臭橙クサイ、芭蕉ハハ、檳榔樹ビシ、荔枝リシ、等ナリ

暖帶(又櫟類帶) 此帶ハ沖繩本島ノ中央以北ヨリ四國
九州及ビ本州ノ南半ヲ領シ北緯三十五度ニ達ス但シ
海岸ニ於テハ尙北ニ延ビテ三十七度半ニ及ブ即チ同
溫線十三度以上二十一度以下ノ地ヲ領スルモノトス
固有ノ樹種ハ櫟類、椎類、其他常綠闊葉樹ナリ此帶ヲ別
ケテ南北ノ二部トス

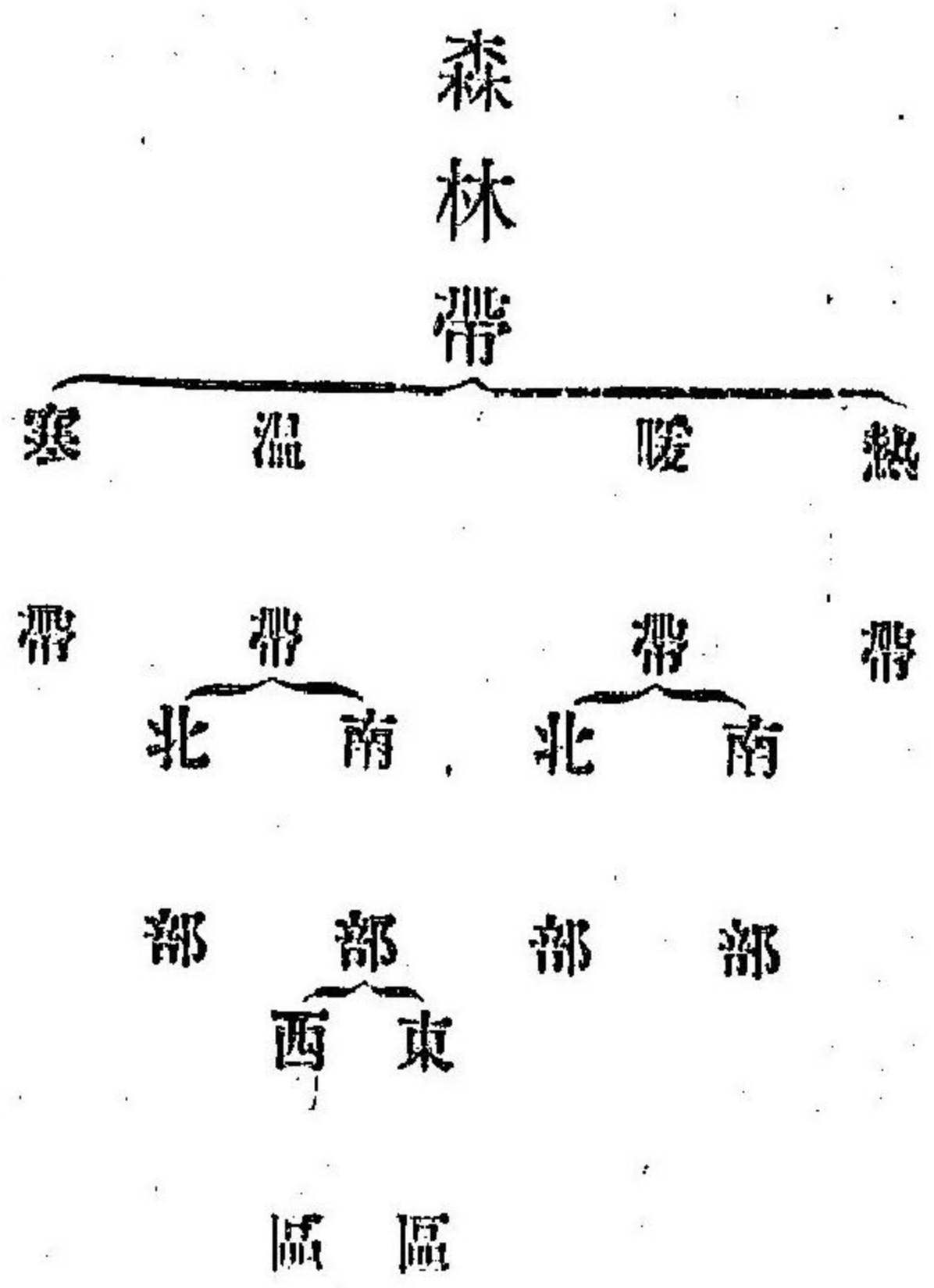
一、暖帶南部 沖繩島ノ中央ヨリ九州四國ノ低地
全部ヲ領シ溫暖ニシテ多雨ノ氣候ヲ有ス本帶
固有ノ樹種中櫟類及ビ樟ハ林葉上最モ價値ア
ルモノナリ

二、暖帶北部 本州ノ西南部ヲ領シ内地ニテハ北緯三十五度海岸ニテハ三十七度半ニ至ル溫度南部ヨリ低ク雨量モ亦南部ヨリ少ナシ常綠闊葉樹ノ内檜、椎ハ其主ナルモノナリ樟モ亦稀ニ之ヲ見レドモ冬期ニ於テ他樹ノ保護ヲ受ケザレバ完全ニ生育シ難シ

溫帶(又掬帶) 本州北部及ビ北海道過半ノ西南部ヲ領シ本州ノ海岸ニテハ北緯三十七度半内地ニテハ三十五度ニ始マリ北海道ノ中央ナル北緯凡四十三度半ノ地ニ及ビ主トシテ同溫線六度以上十三度以下ノ地ヲ領ス此帶ニ於ケル最モ著シキ林木ハ「ブナ」ナルヲ以テ

又掬帶ト稱ス此帶ハ水平的ニ之ヲ南北二部ニ分ケ更ニ南部ヲ東西ノ二區ニ分ツ即チ溫帶南部東區及全西區溫帶北部コレナリ

寒帶 此帶ハ白檜、椴、松等ノ天生セル區域ニシテ台灣ノ中央ナル新高山ニ於テ一万五千尺ニ始マリ九州ニテハ全ク此帶ヲ缺キ四國ニハ石槌山、劔山等六千尺以上ノ高山ニ於テ之ヲ見ル本州中部ニテハ富士山、御嶽、日光等其他至ル所ノ高山ニ於テ六千尺乃至八千五百尺ノ間ニ此帶ノ存スルヲ見ル平地ニ於テハ唯北海道ニ於ケル北見根室ノ全部及ビ天塩、石狩、十勝、釧路ノ北部並ニ千島列島中同溫線六度以下ノ地ヲ領ス



第七課 本邦ニ於ケル主要ノ樹種

我帝國ハ太平洋ノ西北隅ニ表立セル一帯ノ群島ヨリ成リ南端ハ北緯二十一度四十八分ニ起リ北端ハ同五十度五十六分ニ終リ西端ハ東經百十九度二十分ヨリ東端ハ同百五十六度三十二分ニ至ル其長サ大約六百

余里幅三十里乃至六十里ニ出入ス即チ其形西南ヨリ東北ニ延長シ且其地勢ノ變化甚ダシキガ故ニ從テ種々ノ氣候ヲ有ス殊ニ黒潮ハ熱帶地方ヨリ來リテ以テ熱帶ノ動植物ヲ誘ヒ東北海流ハ國ノ北邊ヲ洗ヒ以テ寒帶ノ動植物ヲ迎ヘ又氣候風ナルモノアリテ支那ノ東岸低地ト同シク夏時ノ灌溉ヲ富裕ナラシメ以テ移住セル動植物ノ蕃殖ヲ促セリ現今既ニ國內ニ於テ發見シタル顯花植物ハ實ニ百三十九科即チ全數二百一科ノ三分ノ二ニ至レリ顯フニ樹木種類ノ如キハ其數四百ニ下ラザルベシ然レドモ

造林上必要ナルハ針葉樹ニアリテハ杉、扁柏、赤松、黒松、花柏、子ヅコ、金松、ヒバ、落葉松等ニシテ濶葉樹ニアリテハ櫟、樺、ホホノキ、樺、樟、桤、白楊等ナリトス

第八課 陰樹及ビ陽樹

凡林木トシテ老年ニ至ルマデ常ニ厚キ樹冠ヲ有シ能ク鬱閉シテ土地ニ適當ノ庇陰ヲ與ヘ永ク地力ヲ保護スル所ノ樹種ハ素ト其枝葉ガ庇陰ニ堪ヘ得ル性質ニ依ルモノナルヲ以テ之ヲ名ヅケテ陰樹トイフ之ニ反シテ早ク林ノ鬱閉ヲ失フ樹種ハ前者ニ比スレバ其枝葉ノ庇陰ニ堪フルコト少ナキ性質ノモノナルガ故ニ之ヲ陽樹トイフ然レドモ各林木ハ其幼年ノ間ヲ除ク

外ハ敢テ庇陰ヲ好ムモノニアラズ唯其庇陰ニ堪ヘウルト否トニ依リ區別セルモノナリ今我林木中主要ナルモノニ付之ガ區別ヲナシ陰陽ノ順序ヲ列記スレバ次ノ如シ

- 一、ヒバ、金松、水松、
- 二、白檜、扁柏、椴、花柏、子ヅコ、榲
- 三、唐檜、樅、山毛榉、シデ、ソロ、檜類、椎類、樟、
- 四、榆、赤楊、ヒメコマツ、テウセンマツ、楓、
- 五、櫟、枹、オホナラ、柳、樺、
- 六、黒松、赤松、杉、樺、ムロ、イブキ、ビヤクレン、白楊、柳類、
- 七、落葉松、白樺、ダケカバ、

而シテ始メノ一二ハ所謂陰樹ト稱スベキモノニシテ
最後ノ六七ハ所謂陽樹ト稱スベキモノナリ而シテ三
四五ハ其中庸ニ屬ス

第九課 混 淆 林

混淆林ニハ散在混淆林及ビ群生混淆林ノ別アリ散在
混淆林トハ異種ノ林木ガ互ニ散在シテ混生スルモノ
ニシテ群生混淆林トハ各樹種群狀ヲナシテ互ニ混生
スルモノナイフ
多クノ林木ハ單純林トシテハ土地ニ充分ノ保護ヲ與
フルコト能ハズ且ツ必要ナル用材ヲ産スル樹種ハ大
抵他ノ林木ノ保護ヲ受ケテ完全ナル成長ヲナスモノ

ナルカ故ニ混淆林ヲ作ラサルベカラザル場合甚ダ多
シ即チ陰樹又ハ陽樹ノ二種以上ヲ混生セシメ陰樹ヲ
シテ充分ニ地力ヲ保護セシメ陽樹ヲシテ地力ヲ害セ
ズ充分ノ生長ヲナサシメザルベカラズ而シテ此混淆
林ニハ陰樹ト陽樹又ハ陰樹ト陰樹若クハ陽樹ト陽樹
トノ三ツノ場合アルベク且ツ其混淆ニハ一時ノモノ
ト永久ノモノトノ別アリ
單純林ト混淆林トノ得失ハ時ト場合トニ應ジテコレ
ヲ論定スベキモノニシテ一般ニコレヲ論ズルコト能
ハズ然レドモ普通混淆林ノ利益トシテ認メラル、モ
ノハ次ノ如シ

- 一、種々ノ危害ニ抵抗スル力大ナリ
- 二、材積ノ成長量ヲ多クス
- 三、社界ニ於ケル種々ノ需要ヲ充タシ易シ
- 四、其地方ノ風致ヲ添フルコト多シ
- 五、野獸ノ棲息ニ適ス

第十課 經濟林

吾人ノ需用ヲ充タス爲ニ經營スル所ノ森林ヲ經濟林ト稱ス即チ森林直接ノ効用ヲ顯ハスノ目的ヲ有スルモノナリ

夫レ森林ハ地力微弱ニシテ他ニ利用スルヲ得ザルノ土地或ハ收利少ナキ土地ニ於ケルモ猶完全ニ生育ス

ルヲ得ルカ故ニ林業ハ山村僻地ニアリテ費用勞力ヲ用フル少ナクシテ却テ他ノ農業ニ比スレバ其効果多キコト少ナカラズ是一ハ樹木ハ農作物ノ如ク地味氣候ニ制限セラルルコト少ナキト一ハ管理及ビ貢租ノ費用少ナキガ爲ナリ

吉野森林ニアリテハ輪伐期ヲ百三十年トシ連年作業ヲ施スルハ年々一町歩ヨリ二十九圓九十二錢ノ純收入ヲ得ラルルニ該地ノ農業ハ年々一町歩僅ニ三圓九十錢ノ純收入ニシテ之ヲ比較スレバ林業ノ純收入ハ農業ノ七倍半餘ナリ其資本ニ對スル割合ハ林業ハ九歩八厘ニシテ農業ハ二分一厘ニ相當セリ次ニ四ツ谷

丸太ハ伐期四十五年ニシテ連年作業ヲ施セバ年々純
 収入三十九圓七十九錢余ニ當ルモ農業ハ七十四錢一
 厘ノ支出超過セリ又水戸地方ノ松林ハ伐期三十六年
 ニシテ連年作業ヲ施セバ年々百圓以上ノ純収入ヲ得
 ルモ農業ヲ施セバ常ニ收支相償ハサルモノノ如シ以
 テ見ルベシ林業ハ永遠ノ事業ニシテ農業ノ如ク眼前
 ノ利ヲ見ル能ハザルモ長年月ノ間ニハ却テ農業ヨリ
 モ利益多キ事ヲ

山林農務ハ國家經濟ノ大本ナリ (西哲)
 林ヲ仕立ツレハ其綠蔭ハ他日家屋ニ映シテ美麗ナリ (西語)
 溜瀝千畝ノ竹ヲ有スルモノハ其人富万戸俟ニ等シ (史記貨殖傳)
 柿一木ヲ宅地ニ植エ置ケハ其租稅ヲ免除セラルハニ同シ (俚言)

第十一課 保安林

保安林トハ森林間接ノ効用ヲ完タカラシムンコトヲ
 目的トスルモノニシテ立木ノ儘無形的ニ其効用ヲ利
 用スルモノナリ即チ保安林ニ於テハ直接ニ多額ナル
 林産物ヲ得ルヲ目的トスルモノニアラズシテ經濟的
 計算ノ如キハ全ク之ヲ第二ニ置クモノトス其個處ヲ
 掲クレバ即チ左ノ如シ

- 一、土砂壤崩流出ノ防備ニ必要ナル個處
- 二、飛砂ノ防備ニ必要ナル個所
- 三、水害風害潮害ノ防備ニ必要ナル個處
- 四、頽雪墜石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル個處

- 五、魚附ニ必要ナル個處
 - 六、航行ノ目標ニ必要ナル個處
 - 七、公衆ノ衛生ニ必要ナル個處
 - 八、社寺名所又ハ舊蹟ノ風致ニ必要ナル個處
- 保安林ノ義解タル國ノ狀態及ビ文明ノ程度ニ從ヒ各國同一ナラズト雖モ今日歐州ニ於テ用非ラルルモノ大要次ノ如シ
- 廣意ニテ保安林ヲ解スルトキハ其作業ノ完全上或ハ其森林固有ノ義務上或ハ第三者ノ危害上ヨリ政府ノ保護ヲ要スル所ノ森林ヲ謂ヒ又狹意ニテ之ヲ解スルトキハ其保護ノ國民進歩上及ヒ衛生上必要ナル關係

ヨリ保護セララルル所ノ森林ヲ云フ

佛國ヲ亡ホスモノハ敵國ニアラズシテ森林ノ荒敗ナリ (コルベール)
 國ノ實ハ山ナリ然レモ伐リ盡スルハ用タマズ盡キザル以前ニ備テ立ッベシ山ノ濠
 ハ即チ國ノ衰ナリ (濠江政光)

第十二課 魚付林

我國維新前ニ於テハ各藩ニ於テ魚付林又ハ魚寄林ナルモノヲ設ケ水ニ近キ森林ヲ魚類飼養場又ハ魚寄場トナシ其森林ノ保護ニ力メタルヲ以テ水産上得ル所甚ダ大ナリキ

是レ森林ノ繁殖スル時ハ自然其枝葉ニ棲息セル虫類又ハ植物質ノモノ等常ニ水中ニ落下シテ魚腹ヲ肥ス

ベク而シテ最モ大ナル關係ヲ有スルモノハ森林ノ青色ナル事ナリトス即チ水邊ニ青色ヲ帶ベル森林アラバ光線ノ反射ニ依リテ水面ニ黑色ヲ映ズベシ由來魚類ハ暗キヲ望ンデ集ルモノニシテ殊ニ近海ノ魚族ハ産卵ノ爲ニ海岸暗黒ノ場所ヲ尋チ來ルモノナレバナリ

第十三課 氣候調和

森林ハ其地方ノ溫度ト乾濕トヲシテ兩極端ニ至ラシメザル調和機關ニシテ國土廣キヲ致スニ從ヒ此關係ハ愈著大トナルモノナリ
ソレ森林地方ノ溫度ガ比較的夏期ニ低ク冬期ニ高ク

シテ從テ晚霜ト早霜トヲ防止シ得ルモ禿山地方ガ常ニコレヲ免レ得ザル事ハ多年ノ實驗ニ依リテ證セラレシ處ナリコレ森林ハ盛夏ニ於テ陽光ト陽熱ノ大部分ヲ遮ルガ故ニシテ又其乾濕ノ度ヲ中和スルハコレガ爲ニ空氣ノ運動少クシテ水分ノ蒸發烈シキニ至ラザルガ故ナリ

樹木ハ與地ノ仲媒ナリ風雨寒暑ニ抗シテ萬物ヲ保護ス原野庭園ニ在リニ吾人ノ耳目ヲ喜ハシ其鴻益タル實ニ駭陸ノミニアラズ (ラフオンテイス)

第十四課 水源涵養

林木ノ枝葉ハ土地ヲ庇蔭シテ光熱及ビ風ヲ遮リ以テ

大ニ地上水分ノ蒸發ヲ防ギ雨水ヲ永ク保存シテ徐々ニコレヲ流出セシメ絶エズ水源ヲ涵養スル作用ヲナスモノナリ凡ソ無森林地方ノ廣地ニ降ル雨量ノ内百分ノ六十四ハ何レモ蒸發シ盡スト雖モ森林地方ニ於テハ此量僅ニ百分ノ二十四ニ過ギズ
 今假ニ一年間ノ雨量ヲ二千「ミリメートル」トスレバ左ノ割合ヲナス理ナリ

	蒸發量	殘量
無森林地方	一、二八〇 _{ミメ}	七二〇 _{ミメ}
森林地方	四八〇	一、五二〇

サレバ森林ハ低地ニ對シテ實ニ貯水器タルノ用ヲナスヲ知ルベシ

我國ノ樹種中水源涵養林トシテ最モ適當ナルモノハ花柏、杉、赤楊、山毛櫸、胡桃、檜等ナリ此等ノモノハ土地ヲ庇蔭スルコト強ク從テ水分ノ蒸發ヲ妨ゲ又其性質濕地ニ適スルモノナレバナリ

山林ハ傾斜面ヲ保護ス洪水ヲ患フル地ニ在テハ苗木ヲ培植セヨ (西諺)

第十五課 平地及ビ海岸ノ砂防

森林ハ平地及ビ海岸ニ於テ飛砂ノ害ヲ防グモノナリ即チ如何ニ輕鬆ナル砂地ト雖モ森林ノ存在スル時ハ

土地ニ濕氣ヲ保タシムルガ爲ニ土砂ノ飛散ヲ防ギ蔓延セル樹根ニ依リテ土砂ヲ安定セシメ暴風ヲ支ヘテ其勢ヲ抑ヘ土砂ノ飛散ヲ防止スル作用ヲナス
 砂地ノ森林ハ又啻ニ其土砂ノ飛散ヲ防グノミナラズ飛砂ノ爲ニ近傍農地ノ害セラルルヲ防グモノナレバ決シテコレヲ忽諸ニ附スベカラズ

暴風ノ害ヲ避ケント欲セバ汝ガ耕原ノ前ニ樹木ヲ植エヨ (西諺)

第十六課 衛生上ノ利益

凡テ樹木ハ晝間ニ於テ炭酸瓦斯ヲ分解シテ其炭素ヲバ吸收シ酸素ヲバ遊離セシムルヲ以テ近傍ノ空氣ヲ

シテ常ニ清淨新鮮ナラシムルハ勿論多量ノ「オゾン」ヲバ造リ出スヲ以テ有毒性ノ瓦斯及ビ微菌等ヲモ無害トナシウベク又其中ニ擴ガレル根ハ夥ダシク水分ヲ吸收スルヲ以テ濕地ヲモ健康地トナシ得ベク又風ノマニマニ吹キ來ル病源的細菌ノ如キモ樹葉ノ爲ニ遮ギラレテ再ビ飛ビ散ル能ハズ終ニ死滅スルニ至ルモノナリ森林ガ衛生上ニ及ボス利益ソレ大ナリト云フベシ

第十七課 精神上ノ影響

森林ハ其地方住民ノ氣風ヲシテ質朴勇武ナラシム凡ソ人間ノ精神ナルモノハ其周圍ノ境遇如何ニ依リテ

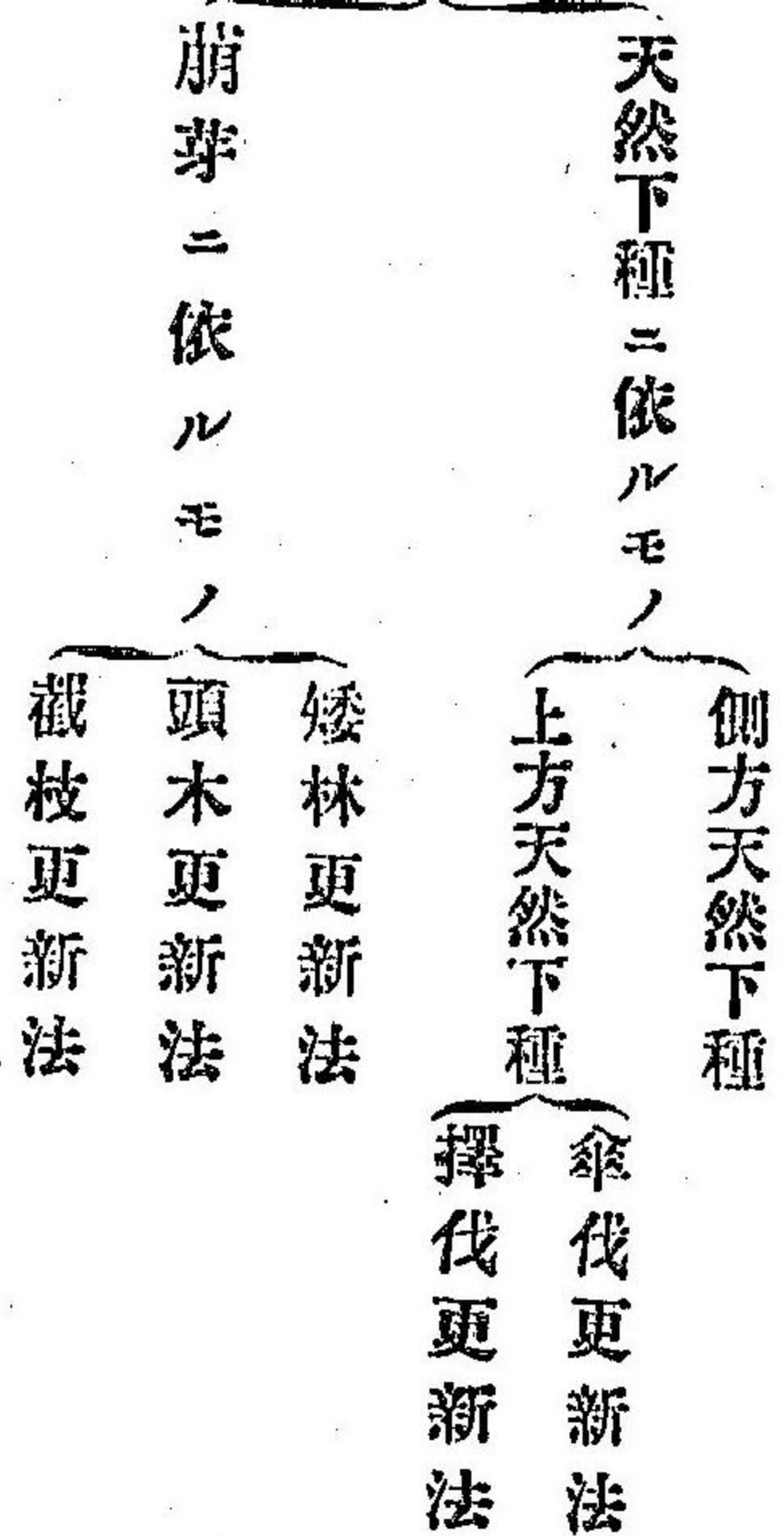
至大ノ影響ヲ受クルモノニシテ平原ノ民、海濱ノ民、各々其氣風ヲ異ニスルモノナリ
 蓋シ森林ハ國土ノ最モ高尚ナル裝飾ニシテ自ラ高尚ナル心情ヲ鼓舞シテ天真ノ快樂ヲ生ゼシム實ニ森林ハ^{紅塵}塵萬丈ノ外ニ在リテ心身ヲ靜養スル天惠ノ樂園ナリ古來美術詩歌等ヲ以テ有名ナル人士ガ多クハ山中僻遠ノ地ヨリ出デシコト亦大ニ森林ノ感化スル所ダラズトセンヤ且ツ又偉人傑士ト稱セラレ、モノモ亦多ク山間ヨリ出デシヲ知ラバ森林其物ガ人ノ精神上ニ及ボス影響ノ如何ニ大ナルカヲ察知スベシ

第十八課 天然造林法

天然造林ニハ天然下種ニ依ルモノト萌芽ニ依ルモノトノ二種アリ天然下種トハ母樹ヨリ種子落下シテ之ヨリ稚樹ヲ發生スルモノヲ云ヒ萌芽ニ依ルモノトハ舊林木ノ根株等ヨリ發生スル萌芽ヲ以テ次代ノ森林ヲ形成セシムルモノヲ云フ而シテ又天然下種造林ニハ側方天然下種ト上方天然下種トノ二アリテ側方天然下種トハ其母樹カ更新地ノ側方ニ存スル場合ヲ云ヒ上方天然下種トハ母樹ガ常ニ更新地ノ上ニ存在シテ管ニ種子ヲ結ンデ天然下種ノ作用ヲナスノミナラズ稚樹ノ保護ヲナスモノニシテ叅伐更新法ト擇伐更新法トノ別アリ

又萌芽更新法ハ多ク濶葉樹ニ行ハル、モノニシテ矮林更新法頭木更新法截枝更新法ノ三法アルナリ

天然造林法



第十九課 人工造林法

人工造林法ニハ植樹造林、播種造林、挿木、伏條、分根、分孽、等ノ種類アリ
植樹造林法トハ苗木ヲ仕立テ之ヲ山地ニ植付クル造

林法ニシテ種子ノ採集撰擇ヨリ苗木ノ仕立方法ハ勿論植付地ノ地拵植樹ノ種類及ビ其得失等ヲ考究セザルベカラズ
播種造林法ニハ散播ト所播トノ二種アリ前者ハ全面積上一面ニ種子ヲ散布スルモノニシテ後者ハ或區域ヲ限リテ播種スルモノナリ此法ハ苗圃ヲ造リ或ハ床替植付等ノ手數ヲ要セズ甚ダ簡便ナル方法ナリト雖モ我國ノ如キ雜草ノ繁茂頗ル速カナル處ニ在リテハ之ヲ行フコト困難ナリトス唯山嶽ノ崩壞地へ山橙ヤシヤブシ、赤松等ノ種子ヲ散布スルガ如キハ今日ノ場合ニ於テ必要ナル造林法ナルベシ

挿木造林法ハ生木ノ幹又ハ枝ノ一部ヲ或適當ノ長サニ切り其基部ヲ地中ニ埋メコレヨリ根ヲバ發生セシムルモノニシテ直ニ山地ニ造林シ又ハ此法ニ依リテ苗木ヲ造リテ後コレヲ山地ニ出スモノナリ

伏條造林法ハ樹木ノ枝又ハ幼少ナル幹ヲ地面上ニ屈曲セシメ之ニ土ヲ覆ヒテ根ヲ生ゼシメ然ル後母樹ト分テテ造林ノ用ニ供スルモノナリ

分根造林法ハ指大ノモノヨリ直徑一寸位マデノ根ヲ春季又ハ秋季ニ掘り取り五寸乃至一尺五寸位ノ長サニ切り取り之ヲ地中ニ埋メテ其尖端ノ一部ヲ地上ニ露ハシ置クトキハ其根ヨリ萌芽シ得ベシ此法ニ依リ

テ苗木ヲ造リ林地ニ植栽スルモノナリ

分蘖造林法トハ其蘖ヲ用フルモノニシテ多クノ潤葉樹類ハ其蔓延セル根端ヨリ萌芽ヲ出スルモノナレバ此等ノ蘖ノ基部ニ土ヲ盛り置クトキハ能ク根ヲ生スルモノナルガ故ニ之ヲ秋ヨリ春ノ間ニ母樹ヨリ分テテ獨立セル苗木トシテ一回ノ床替ヲナシテ然ル後山地ニ出スナリ

野ニモ山ニモ木ハ植エ給テヨ (古語)
樹木ト雜草ハ日夜自ラ生長ス (西語)

第二十課 植樹法ノ種類及ビ得失

苗木ニハ鉢狀ニ土ヲ附ケタル儼之ヲ用フルモノト土

ヲ振り落シ裸根トナシテ用フルモノトノ別アリ又根
 株ノ上部ヨリ切去リコレヲ用フルモノト枝葉ヲ自然
 ノ儘ニ存シテコレヲ植付クルモノトアリ而シテ一本
 ズ、コレヲ植ウルモノト數木ヲ一處ニ寄植トスルモ
 ノトアリ其土地ノ狀況ニ依リテ適宜施行ス
 又苗木ヲ植エ付クルニハ其位置ヲ規則正シクスルモ
 ノト不規則ニスルモノトアリ規則正シクスルヲ以テ
 便利ナリトス其規則正シク植付クルモノニアリテハ
 直方形植樹ト正三角形植樹トノ別アリ正三角形植樹
 ヲ以テ最モ利益多シトス
 コレ正三角形植樹ハ同一ノ面積ニ於テ苗木ヲ植付ル

コト他法ニ比スレバ大約一割半ノ數ヲ増シ風雪ニ對
 スル抵抗力強ク其生長ハ完全ニシテ最モ早ク鬱閉シ
 能ク地力ヲ利用シ得ルガ故ナリ之ニ次クモノヲ直方
 形植樹トス故ニ必ズ植樹ニハ此二法ノ内ヲ撰擇スベ
 シ

第二十一課 植樹上疎密ノ關係

今土質上ヨリ植樹ノ疎密ヲ論スルトキハ瘠惡ノ地或
 ハ砂土ニハ一層樹木ヲ密生セシメ土地沃饒ニシテ粘
 土質ナル處ニハ較々粗ナラシムベシ又傾斜シタル土
 地ハ平地ヨリ密ニ植栽シ南ニ面シタル地ハ北面シタ
 ル土地ヨリ密ニシ寒地ニシテ降雪多キ土地ハ可成粗

ニセザルベカラズ是レ一ハ地力ヲ保護シ一ハ樹冠ヲ強壯ナラシメンガ爲ナリ

第二十二課 森林作業法

森林ノ作業法ガ之ヲ大別シテ喬林作業、中林作業、萌芽林作業ノ三種トス

第一喬林トハ普通ノ松林又ハ杉林ニ於ケルガ如ク種子又ハ苗木ヨリ成立テ林木ハ伐期ニ於テ一時ニ利用シ盡サルルモノナイフ其森林ノ更新方法ノ異ナルニ依リ之ヲ細別シテ擇伐作業、皆伐作業等ノ數種類ニ區別ス

第二中林トハ上木ト下木トノ二林木ヲ有シ其上木ハ

喬林ニシテ下木ハ矮林ヨリ成ルモノナリ

第三萌芽林トハ其地上ニ存スル樹体ヨリ萌芽シテ成立セル森林ニシテ且其林木ハ一回ノ利用ヲ以テ其作業ヲ終ル事ナク常ニ樹体ノ一部分ノミヲ利用スルモノナリ「ナラ」ク「ヌギ」ノ薪炭林ノ如キ其好例ナリ而シテ萌芽林モ亦其萌芽セシムル方法ノ異ナルニ依リ矮林作業、頭木作業、截枝作業等ノ區別アリ
此他猶前作林業及ビ間作林業ト稱スルモノアリト雖モ林業上利益トスベキモノニアラザレバユ、ニ贅セズ

第二十三課 間伐(疎伐)

間伐トハ除伐ノ方法ニ依リテ新林ノ整理ヲナセシ後

行フベキ伐木ナリコレ總テ樹木ハ密植シテ放棄スル
 トキハ其生長スルニ從ヒ優勝劣敗ヲ生シ劣者ハ益々
 衰へ遂ニ枯死スルニ至ルノミナラズ他ノ良木ヲモ害
 スル事アレバ或年度毎ニ之ヲ伐採シテ森林ノ正整ヲ
 保テ且ツ伐期前ニ多少ノ收入ヲ得ベキモノナリ但特
 ニ一二林木ノ成長非常ニ盛ンニシテ他ノ數多ノ中庸
 ナル生長力ヲ有スル林木ヲ壓倒スル傾キアルトキハ
 多數ノ利益ノ爲ニ其一二ノ優者ヲ伐採スベキハ勿論
 ナリ而シテ間伐ノ目的ヲ約言スレバ次ノ如シ

- 一、生存木ノ生長ヲ倍進シ其形質ヲ善良ニス
- 二、間伐シタル木材ヲ收穫ス

- 三、生存木ニ害虫黴菌ノ發生ヲ防グ

故ニ間伐ヲ始ムルニハ其森林ニ於テ已ニ支配木ト被
 壓木トノ差ヲ生シ且ツ被壓木ヲ伐採シテ得ル所ノ收
 入ハ少ナクトモ其間伐ノ費用ヲ償ヒ得ル時タルヲ要
 ス然レドモ間伐後ノ林木生長量ノ増加ニ依リテ現時
 ノ損失ヲ償ヒ得ル場合ニハ此限リニアラズ通例松、杉
 落葉松、花柏、栗等ハ十二三年生扁柏「ヒバ」「チヅコ」金松其
 他陰樹ノ種類ハ二十年生頃ヨリ間伐ヲ始ムベキナリ

第二十四課 枝打チ(枝下シ)

枝打チトハ林木ノ幹ヨリ生ゼル枝條ヲ伐採スル方法
 ニシテ其目的ノ主ナルモノハ次ノ如シ

一、無節ノ良材ヲ産出セシムル事
 二、林木ノ上長生育ヲ促ガス事
 三、本末同大ノ木材ヲ産出セシムル事

此他其樹種及ビ造林方法ニ依リテハ枝葉ヲ利用スル爲或ハ下木ノ成長ヲ助クル爲ニナス事アリ

凡テ一般ニ林木ハ生長スルトキハ其下枝ハ自ラ枯死シテ小ナルモノハ直ニ脱落スレドモ太キ枝ハ枯死セ

ル儘永ク樹幹ニ附着シ所謂死節ヲ作り木材ノ價值ヲ減少セシムルモノナレバステ枯枝ハ速ニコレヲ切り取ラザルベカラズ

枝打ハ單ニ枯枝ノミナラズ尙生枝ヲモ伐採スルモノ

トス一般ニ下枝ヲ伐採シ樹冠ノ量ヲ減ズル時ハ其翌年ヨリ年輪ノ幅ハ幹ノ上部ニ廣クナリ下部ニ之ヲ減ズベク從テ自ラ圓柱狀ノ樹幹ヲナスニ至ルベシ又最近ノ研究ニ依リ適度ノ枝打ハ上長成育ヲ増加スルコト確實トナレリ

枝打ヲナスニハ通例樹幹ニ沿フテ枝ノ基部ヨリ伐ルモノトス而シテコレヲ爲スニハ銳利ナル刀ニテ幹ト平行シテ垂直ニシ養分直チニ切口ヲ養ヒテ之ヲ卷キ込ムコト速カナラシムベシ而シテ枝打ノ季節ハ秋ノ末ヨリ春ノ初メマデヲ常トス若シ樹液ノ流動セル間ニ之ヲ行フトキハ切口其他ノ樹皮剝離シ易キノ

ミナラズ其切口ヨリ樹液ヲ流出スルガ故ニ成長ニ害アリ
 大和吉野地方ニテハ杉扁柏等ハ植付後八九年ヲ經テ
 二年若クハ三年毎ニ早春枝打ヲナシ二十年乃至二
 十五年以上ニ至レバ五年毎ニ之ヲ行フ其度ハ中枝以
 下ノモノヲ鉋ヲ以テ切り取ルヲ常トナス

第二十五課 林相ノ自然的變化

森林ヲ皆伐若クハ燃燒スルトキハ自然固有ノ林相ヲ
 失シ草原トナリ遂ニ秃山ニ變化シ了ハルベシ今其順
 序ヲ細説スレバ熱帶即チ榕樹帶ニ在リテハ榕樹ヲ主
 トシテ林投樹檳榔樹等繁茂シテ本帶ヲ支配スト雖モ

乱伐或ハ燃燒スルトキハ臺灣赤松等ヲ生シ猶乱伐及
 ビ燃燒ヲ重ヌルトキハ竹林トナリ次ニ草原トナルモ
 ノナリ
 暖帶即チ櫛類帶ニアリテハ常綠潤葉樹林ヲ皆伐若ク
 ハ燃燒スルトキハ一部ハ其根株ヨリ萌芽シ從來ト同
 シキ常綠潤葉樹林ヲ生ズルモ多クハ「マルデ」「ヤシヤブシ」
 「ヤマハン」ノキ「コナラ」「クヌギ」「アベマキ」等ノ落葉潤葉樹
 林トナリ猶乱伐若クハ燃燒ヲ繼續スルトキハ赤松ノ
 純林トナリ遂ニ草原トナルモノナリ
 溫帶即チ掬帶ニ在リテハ南部ト北部ニ依リテ林相ノ
 變化ヲ異ニセリ其南部ニ在リテハ數回ノ乱伐及ビ燃

燒ハ林相ヲシテ遂ニ赤松林ニ變化スト雖モ北部ニ在
 リテハ栗、白樺ノ單純林ヲ作り終ニ草原ト化シ去ルモ
 ノナリ
 寒帶ノ森林ハ「トドマツ」「エゾマツ」「アララギ」「シラベ」ヨリ
 成ルト雖モ天變地異ノ爲メ又ハ伐木燃燒ノ如キ人工
 ノ結果トニ依リ此等ノ地ガ裸出セラルル時ハ白樺「タ
 ケカバ」「ミヤマハンノキ」「ヤマハンノキ」等ヲ生ジ其火ノ
 入ル事屢次ナル所又ハ海岸ノ砂地ニハ「カンバ」「大ナラ」
 「ドリ」「ヤマナラシ」ノ類ヲ生ズル事アリテ終ニ草原トナ
 ル
 以上ノ如ク斧ト火トノ害ヲ蒙リタル森林ハ終ニ草原

トナリ加之其地力衰弱シテ乾燥ヲ來スヤ雜草復タ生
 長セズ五分刈ノ山頭秃兀ヲ添加スルモノアルニ至ル
 此後當ニ蒙ルベキ林相變化ハ如何ナル慘狀ヲ呈スベ
 キカ豈痛息セザルベケンヤ

第二十六課 亂伐ノ害

林地ノ如何ヲ察セズ唯自己眼前ノ慾望ヲ達セントシ
 テ林木ヲ伐採シコレガ植栽ヲ爲サザルモノヲ稱シテ
 亂伐ト云フソレ亂伐ハ森林經濟ノ保續ヲ損シ林地ヲ
 荒廢ニ陷ラシム即チ降雨ハ漸次土地ヲ崩壞流出シテ
 所謂地肉ヲ剝ギ岩骨ヲ露ナルモノナリ而シテ此等
 ノ泥土岩塊ノ如キハ河川ノ下流ニ至リテ其水勢ノ稍

遲緩ナル所ニ至レバ次第ニ沈澱シテ河底ヲ高メ以テ
 洪水氾濫ノ害ヲ起サシムルモノトス中國地方ニ於ケ
 ル河流ノ如キハ其好例ニシテ河床ハ却テ平地ヨリ高
 キヲ見ルナリ
 森林ノ荒廢セル地方ニ於テハ如何ニ人力ヲ以テ河川
 ノ兩岸ニ堅牢ナル堤防ヲ築クト雖モ到底洪水ノ害ヲ
 防グコト能ハザルベシ故ニ河ヲ修メントスレバ先ヅ
 山ヲ理ムルニ如カズ周人伯陽父曰ク國ハ山川ニ依ル
 山崩レ河竭ルハ亡ブルノ徵ナリ川源塞レバ國必ズ亡
 プト乱伐豈慎マザルベケンヤ

樹木ハ一朝之レヲ伐斫セハ其効用ノ中ハ没ニ於テ消滅ス

(四哲)

斧斤時ヲ以テ山林ニ入ラバ材木勝ケテ用ウベカラズ (孟軻)
 三寸回リ以下ノ樹木ヲ伐採セハ其材必ス貧困ニ陥リ復救フベカラズ (後小角)
 山林ノ學術ニ明カナリト云ヘモ輪伐ヲ行フニアラサレバ決シテ山林ノ取扱ニ熟達
 セルモノト云フヲ得ス (ユツタ)

第二十七課 下草採集ノ害

苗木植栽ノ後數年間ハ下草ヲ生スルコト多シ而シテ
 此下草ハ太陽ノ光線ヲ遮ギリ空氣ノ流通ヲ悪シクシ
 又土地ノ養分ヲ奪去シ水分ノ量ニ變異ヲ來タシ地温
 ヲ低クシ土地ノ分解ヲ悪シクシ苗木ノ生長ヲ害ス故
 ニ之ヲ刈リ取ラザルベカラズ即チ松、扁柏ニアリテハ
 植附後三年間ハ年々二回下草ヲ刈リ三年後七年ニ至
 ル間ハ年一回下草ヲ刈リ取ルヲ要ス然レドモ此刈リ

取リタル下草ハ可成コレヲ林地ニ放棄シテ肥料ニ供
 スベシ
 世ノ中ニハ森林中ノ落葉下草ハ總テコレヲ搔キ除キ
 テ清潔ニスルトキハ樹木ヲシテ能ク成長セシムルモ
 ノナリトイフ説アリコレ大ナル誤謬ナリ何トナレバ
 葉部ノ落下セシモノハ之レ即チ樹木ニ要スル所ノ地
 力ノ大半ヲ補償シウベク又雜草ハモト地方ノ幾分ヲ
 吸收セシモノナレバナリ左ニ其一例ヲ舉ゲン
 彼ノ獨逸「バイエルン」ノ有名ナル「ニエルンベルグ」ノ森林
 ニ在リテハ古昔ハ王有ニ屬シタルモ今日ニアリテハ
 「バイエルン」官林ニ屬スル松樹ノ平坦林ニシテ一万五

千町歩ヲ占有シ「ニルンベルグ」ノ都會ヲ圍繞セリ其周
 圍ニハ村落群在セルヲ以テ田畑多ク大抵肥料ヲ此森
 林ノ落葉蘚苔ニ仰ギテ耕作セリ然ルニ今ヨリ三十年
 以前ニ落葉蘚苔ノ採集ヲ制限シ或ル部分ニハ嚴禁シ
 タリシニ猶今日ニ於テモ落葉蘚苔ノ採集ヲ自由ニ許
 シタル他ノ森林ヲ見ルニ七八十年生ニシテ目通り一
 尺八九寸ナルニモ拘ハラズ此森林ハ五尺ノ太サヲ有
 スルヲ見ルトイフ落葉下草採集ノ樹木成長上ニ影響
 ナ及ボス事大ナリト云フベシ

第二十八課 火災ノ豫防及ビ消防法

森林ニ起ル火災ノ原因ハ種々アリト雖モ要スルニ人

爲ト天爲トニ屬ス前者ハ人ノ不注意惡戯故意等ニ依
 リ後者ハ樹木ノ動搖セル際其摩擦ニ依リ或ハ落雷ニ
 依ル今コレヲ豫防セント欲スレバ天爲ノ火災ハ人力
 ノ防禦スベカラザルモノ多シト雖モ人爲ノ火災ニ至
 リテハ豫メコレヲ防禦スルコト敢テ難キニアラザル
 ナリ即チ常ニ警備ヲ嚴ニシ燃燒ノ豫防ニハ森林中適
 宜ノ距離ニ於テ溝渠ヲ穿テ或ハ道路ヲ設ケ防火線ト
 ナシ又ハ樹種ヲ混淆スルニ在リ即チ針葉樹中ニ濶葉
 樹ヲ混植スルガ如シ
 消防ノ目的ハ火災ノ蔓延ヲ防グニ在リ其法樹木梢頭
 ニ失火アル場合ニハ之ヲ簡單ナル方法ニテ消スコト

困難ナルガ故ニ其進ミ行ク前方ニ於テ迅速ニ樹木ヲ
 伐採シテ防火線ヲ作ルベシ又時トシテハ最後ノ手段
 トシテ迎火ヲ放ツコトアルベシ
 又地表火ノ場合ニアリテハ單ニ青葉ノ附着セル枝ヲ
 以テコレヲ打テ消シ又近傍ノ地被ヲ清掃シ又ハ土ヲ
 堀リ返ヘシテ其蔓延ヲ防グベシ

第二十九課 風雪ノ害

風ハ其速力ニ依リテ常風及ヒ暴風ノ二ニ分テ得ベシ
 我國ニ於ケル常風ハ一般ニ夏期ニ於テ南風多ク冬期
 ニ於テ北風多シ風力ハ冬ヨリ春ニ於テ最モ強ク夏ヨ
 リ秋ノ間ハ弱シ又海洋ノ沿岸ハ一般ニ内地ヨリモ風

力強シ而シテ風ハ土地ヲ乾燥セシメ雜草ノ繁茂ヲ來
 タシ樹木ノ成長ヲ妨ゲ老樹ノ材質ヲ損シ菌類ノ繁殖
 ナ助ク故ニ成ルベク森林ノ鬱閉ヲ充分ニ保テコレヲ
 防禦セザルベカラズ其風害ノ著シキ地方ニ在リテハ
 特ニ保護樹帶ヲ設クベシ
 雪ハ枝葉ニ堆積シ其重量ニ依リテ樹枝樹幹ヲ屈曲セ
 シメ或ハコレヲ倒シテ森林ニ損害ヲ來ス事アリ殊ニ
 春雪ニ於テ其害最モ大ナリトス故ニ雪害ノ多キ地方
 ニテハ小樹ナレバ繩大樹ナレバ綱ヲ製シ豫メコレガ
 備ヘテナスベシ

第三十課 霜 害

霜ノ播布區域ハ廣濶ナルアリ或ハ一地方ニ限ラル、
 コトアリ其發生スル季節ニ關シテハ早霜ハ秋ニ於テ
 晩霜ハ春ニ於テ生スルモノナリ而シテ晩霜ハ多ク低
 地ニ發シ早霜ハ山地ニ多シトスコレ寒冷ナル空氣ハ
 溫暖ナル空氣ヨリ比重大ナルガ故ニ雲ナク風ナキ靜
 夜ニ在リテハ常ニ地面ニ接シテ最下層ヲナスモノナ
 リ此理ニ依リテ凹窪ノ地面ハ霜害ニ遇フ事夥シトス
 何トナレバ寒冷ナル空氣ハ流動スル事少ク沈靜ナル
 モノニシテ其霜層ト稱スベキハ地面上三四尺マデト
 ス故ニ樹木ノ霜害ヲ被ムルモノハ稚樹ニ多シ而シテ
 霜ノ林木ヲ害スル有様ハ左ノ四項ニ分ツコトヲ得ベ

- 一、幼林又ハ樹木ノ幼稚ナル機關ヲ氷結セシム
 - 二、樹幹ヲ破裂セシム
 - 三、樹幹ニ裂傷ヲ起サシム
 - 四、幼樹ノ根部ヲ抜キ出サシム
- 今霜害ヲ被ラズシテ植樹セント欲スレバ左ノ規則ヲ守ルベシ
- 一、霜ニ感ゼザル樹種ヲ撰ブベシ
 - 二、最モ遅ク生長ヲ始ムルモノヲ撰ブベシ
 - 三、保護樹ヲ用フベシ
 - 四、濕氣多キ地ハ新植ニ先ダナ排水ヲ施スベシ

- 五、霜害ノ恐レアル地ノ苗圃ハ北面或ハ西北面ノ地ニ作ルベシ
- 六、種子ヲ播下スル時節ハ早クモ三月以後タルベシ而シテ能ク土ヲ覆フベシ
- 七、苗床ハ秋ニ於テ藁ニテ被覆シ春季ニ於テハ樹枝又ハ芦簣ヲ以テ霜除ケヲ造ルベシ
- 八、寒夜樹枝ヲ燃燒シテ煙ヲ苗圃ノ上ニ漲ラシムベシ
- 九、白霜ヲ以テ覆ハレタル苗圃ニハ日出前ニ冷水ヲ灌キ其溶解スル爲ニ起ル害ヲ防グベシ
- 十、霜柱ニ依リテ抜キ出サレタル苗木ハ直ニ他ニ

移植シ細土ヲ其根元ニ置クベシ

第三十一課 旱魃ノ害

旱魃ノ爲ニ土地ニ必要ナル濕氣ヲ奪ヒ去ラルル時ハ
 種子ハ其發芽ヲ妨ゲラレ嫩芽ハコレガ爲ニ枯死シ苗
 木モ亦乾燥シテ枯死スルニ至ル而シテ大樹ニアリテ
 ハ其根ヲ擴張スルコトモ亦大ナルヲ以テ苗木ノ如ク
 其害ヲ受ルコト甚ダシカラズト雖モ旱魃ノ續クニ當
 リテハ樹葉乾燥シテ不時ニ落下シ幼枝ハ枯死シ樹幹
 モ亦其成長ヲ妨ゲラルルモノトス

造林法ヨリ之ヲ論ズル時ハ旱魃ノ恐レアル場合ニハ
 可成天然造林法ヲ以テ人工下種ニ代フベシ然ラザレ

バ根ノ丈夫ナル強壯ノ苗木ヲ用非其根元ニ雜草等ヲ
 置キテコレヲ保護スヘシ

苗圃ニ付テハ春季苗床ヲ深ク耕ヤシ灰又ハ燒土ノ如
 キ肥料ヲ施スベシコレ單ニ雜草ノ發生ヲ防グノミナ
 ラズ又苗木ノ鬚根ノ發生ヲ助クルモノナリ

第三十二課 虫害

樹木ヲ害スル虫類ニハ種々アリ或ハ花實ヲ喰ヒ或ハ
 稚芽幹枝葉等ヲ害シ又苗木ノ根ヲ蝕害シテ枯死セシ
 ムコレ等ハ宜シク其害虫ノ特性ヲ研究シ相當ノ方法
 ヲ設ケテコレヲ豫防シ或ハ撲殺セザルベカラズ

左ニ驅除方法ノ一斑ヲ舉レバ

- 一、害虫ノ棲息所ヲ搜索シテ之ヲ殺ス事
 - 二、害虫ノ枝葉ニ群生スルカ或ハ幼虫ノ孵化スル際コレヲ殺ス事
 - 三、害虫ノ蟄伏セル場所又ハ産卵ノ場所ヲ閉塞シ外ニ出デザル様ニシテ殺ス事
 - 四、害虫ヲ誘導シテコレヲ除キ殺ス事
- 而シテ此驅除方法ヲ實施スルニ當リテハ或ハ人夫ヲ雇ヒ或ハ家畜即チ豚鶏等ヲ放牧シ又ハ藥品ヲ散布スベシ但シ場所ニ依リテハ放火シテ燒殺スル事アリ然レドモ既ニ害虫蔓延スルニ至リテハ最早取ルベキ手段ナク其爲スガ儘ニ任せ置クノ已ムヲ得ザルニ至ル

事アレバ可及的注意シテ蔓延セザル以前ニ於テ捕獲撲殺スベキナリ

又森林ノ害虫ハ營林ノ方法ニ依リテ豫防シ得ル事アリコレ害虫ハ常ニ好ンデ發育不完全ナル樹木又ハ病害樹等ニ寄生シコレヨリ他ノ健全ナル林木ニ蔓延スルモノナレバ營林上ノ諸關係即チ植樹ノ方法保護伐採等ニ注意シ健全ナル林木ヲ造ルベシ是レ最モ完全ナル豫防法ナリ又鳥類中ニハ害虫ヲ捕ヘテ餌トスルモノアリ此等ノ有益鳥ハ宜シク保護スベキナリ

第三十三課 獸 害

稍老成シタル樹木ハ獸類ノ害ニ逢フヲ稀ナレドモ稚

樹ニアリテハ其害ヲ受クルコト多シ野猪ハ森林内ノ地ヲ穿テ土中ニ存スル昆虫樹實殊ニ「カシ」ナラ「クヌギ」ブナ」等ノ實ヲ食スコレガ爲ニ土性ヲ粗ニシ屢々稚樹ヲ掘リ起シ樹根ヲ露出セシム鹿ハ樹實ヲ食シ嫩芽ヲ食シ樹枝ヲ嚙ミ樹皮ヲ剝脱シ樹幹ヲ摩擦シ林地ヲ蹂躪ス又兎ハ軟枝嫩葉ヲ嚙食シ冬期ニハ樹皮ヲ嚙ミテ之ヲ害ス種々ノ濶葉樹ノ葉ノ如キ其最モ好ム所ナリ鼠ハ樹實ヲ害シ樹幹ヲ嚙ミ又土中ニ穴ヲ穿テテ巢ヲ作り通路ヲ開キ爲ニ樹木ヲ損傷ス大和吉野地方ニテハ杉扁柏ヲ山地ニ植付ケン翌年扁柏皮ノ粗皮ヲ去リタルモノヲ四五十日間水ニ浸シ更ニ日光ニ曝ラシ

長サヲバ三四尺程ニナシ之ヲ以テ樹幹ノ根際ヨリ二三尺程卷キ上ゲテ鹿ノ害ヲ防グ又新植地ノ周圍ニ凡ソ五尺ノ高サニ栗扁柏杉等ノ丸太ヲ以テ木柵ヲ造リ以テ野猪ノ侵入ヲ防ギ兎ノ害ヲ防グ爲ニハ各々苗木ニ人間ノ髮毛ヲ卷キ付ケ或ハ之ヲ燻ベタルモノヲ散布スユレ兎ハ牛馬ノ爪其他動物質ヲ燒キテ發スル一種ノ臭氣ヲ好マザルガ故ナリ

第三十四課 微菌ノ害

微菌ハ植物界中最モ下等ノ位置ニアルモノニシテ他ノ植物ニ寄生スルニ活物寄生及ビ死物寄生ノ別アリ後者ハ死物ニ寄生スルモノナルガ故ニ樹木ヲ害スル

事少ナシト雖モ前者ハ健全ナル樹体ニ寄生シテ遂ニ枯死セシムル事アリ而シテ其繁殖ハ溫度及ビ濕氣ノ關係ニ依リ異ナルモノニシテ濕氣多ク隱閉セル場所ハ其繁殖ニ適スルモノナリ

森林ニ對スル菌類ノ害ハ昆虫ノ害ノ如ク甚ダシカラズト雖モ時トシテハ意想外ニ甚ダシク其害ヲ被ルトアルモノナレバ林業ニ從事スルモノハ又宜シク菌類ノ性質ヲ知り之カ繁殖ヲ防ガザルベカラズ

苗圃ニ於テ松杉其他ノ苗木ノ發生ヨリ一二年生ノ間ニ群團ヲナシテ枯死スルコトアリ之レ多ク濕氣ノ過量ナルカ又ハ光線ノ不足セル爲ニ「バクテリア」ノ發生

ヲ促シ一種ノ傳染病ヲ生ジタルモノナレバ排水ヲ施シ日光ヲ與ヘテ「バクテリア」ノ發育ニ不適當ナラシムルト同時ニ一方ニハ殺菌劑ニ依リテ其病菌ヲ滅殺セザルベカラズ

第三十五課 ボルドー液

「ボルドー」液ハ一種ノ殺菌劑ニシテ寄生主ヲ害スルコトナクシテ能ク菌類撲滅ノ力ヲ有シ且ツ其製法モ容易ニシテ廉價ナリ

此液ハ一千八百八十五年頃主ニ佛國「ボルドー」市「ミアルデ」教授ノ唱導ニ依リテ世ニ知ラレタルヲ以テ此名アリ此劑ノ利益アルハ

- 一、殺菌劑トシテ頗ル有功ナルヲ
- 二、廉價ナルヲ
- 三、衛生上安全ナルヲ
- 四、散布セラレタル植物ニ無害ナルヲ
- 五、害菌ヲ撲殺スルノミナラズ作物ニ有益ナルヲ

而シテ其製法ハ左ノ如シ

水一斗

硫酸銅百三十匁

生石灰百匁

之レヲ一斗液ト云フ其用フベキ硫酸銅ハ極メテ純粹

ナラザルモ可ナリ茲ニ一斗液ヲ作ラント欲セバ先ツ木製ノ桶ヲ取り凡ソ八升ノ水ヲ注ギ硫酸銅百三十匁ヲ溶解スベシ次ニ別ニ又生石灰ヲ桶ニ盛り先ツ少量ノ水ヲ漸次ニ加ヘ其微細トナルヲ待ツテ之ニ凡ソ二升ノ水ヲ注ギテ良ク攪拌シ布片ヲ以テ漉シ冷却スルヲ待テ十分ニ攪拌シ之ヲバサキノ硫酸銅液ニ注入シ攪拌スベシ即チ「ボルドー」液ナリ此液ハ可成新鮮ナルモノヲ用フベシ但此液ノ良否ヲ檢スルニハ小刀ヲ取リテ一分間以内浸シ置クベシ若シ小刀ノ面ニ銅ノ附着スルトキハ石灰不足ノ證ニシテ尙石灰液ヲ加フルヲ要ス

第三十六課 森林ノ境界

森林ノ境界ヲ明カニ定ムル事ハ其所有者ノミナラズ
 公共上甚ダ必要ノ事ナルカ故ニ凡テノ文明國ハ法律
 ナリテ私有地ノ境界設置ヲ規定セリ其境界ノ不確實
 ナルハ或ハ故意ニ或ハ偶然ニ諸種ノ損害ヲ誘起スル
 因子トナルモノナリ故ニ森林ノ境界ハ四方ヲ標章シ
 土地並ニ林木ノ臺帳ヲ整頓シ之ニ附屬シテ縮尺ヲ一
 定セシ圖面ヲ製シ置クベシ
 境界ノ劃定ハ既ニ存在セル界標又ハ地圖ニ依リ之ヲ
 定メ或ハ其地古老ノ言ニ依リテ之ヲ正確ナラシムベ
 シ而シテ新ニ境界ヲ設クルニハ各隣地所有者ノ合意

ニ依リ信用アル測量者ニ依リテ之ヲ行ハシムベシ界
 標ノ物質ハ其地ノ事情ニ依リテ異ナレトモ重要ナル
 点ニハ石或ハ土塚ヲ用フルヲ常トス

第三十七課 市町村林

其一 市町村

市ト町村トハ同ジク最下級ノ自治体ニシテ共ニ土地
 ニ依リテノ團結ヨリ生ズ即チ隣保ノ關係ヨリ生スル
 公ノ利益ヲ關照シ並ニ國家委任ノ事務ヲ行フヲ以テ
 其職務トスルモノナリ又市町村ハ法人タリ私法上ノ
 法人タルノミナラズ又公法上ノ法人タリ(公法上ノ法
 人トハ上ニ向ヒ下ニ對シテ等シク公法上ノ權利義務

チ有スル一個想像的ノ人タルノ謂ナリ)
 一個ノ部落ニシテ一町村チ有スルモノアリ又二個或
 ハ數個ノ部落ヲ合シテ始メテ一町村ヲ爲スモノアリ
 町村ハ自治体ノ單位ナリ故ニ之ヲ形成スル部落ニ幾
 個アリト雖モ始メテ町村トシテ獨立ノ働作ヲナスモ
 ノナリ

其二 市町村ノ財政

市町村ノ財政ハ國家ノ財政ト密着ノ關係ヲ有シ又市
 町村ノ發達ハ其財政ノ整理宜シキヲ得ルト否トニ依
 ルモノナリ而シテ市町村ハ其事業ヲ經營スル爲ニ必
 要ナル所ノ經費ヲ負担ス現行市町村制ニ依レバ苟ク

モ市町村ノ公共事業ニシテ市町村ガ自己ノ費用ヲ以
 テ經營スベキモノナラバ法律ノ範圍内ニ於テ奈如ナ
 ル事業ヲモ營ムコトヲ得ルナリコレヲ以テ社界ノ發
 達スルニ從ヒテ市町村ノ事業カ益々増加スベキハ疑
 ナ容レズ殊ニ世運ノ進歩スルニ從ヒテ物價及ビ賃銀
 ハ騰貴スルモノナレバ同一ノ事業ヲ營ムニモ尙年々
 經費ノ増加スルコト已ムヲ得サルノ事情ナリトスサ
 レバ市町村ノ經費ハ次第ニ増加スルノ傾向ナリト斷
 言スルモ敢テ不可ナカルベシ市町村收入ノ必要コ、
 ニ於テカ起ル

市町村收入ノ方法タル種々アリト雖モ其事業ヲ發達

セシムルニ最モ必要ナルハ基本財産ヲ有スルニ在リ
其三 基本財産トシテノ森林

町村ナルモノハ不死ノ法人ナレバ其財産モ亦無盡ニ
シテ不死ノ町村ヲ支持スベキモノナラザルベカラズ
山林ノ如キ地盤安全ニシテ其經濟保護ヲ誤ルコトナ
クンバ決シテ其原質ヲ消耗スルコトナキモノナレバ
其基本財産トスルニ適スルヤ必セリ殊ニ又森林ハ左
ノ理由ニ依リ市町村有山林トナスニ利アリ

一、 林業ハ技藝上割合ニ單一ナリ且ツ連続スルモ
ノニシテ其投機的ノ性質ヲ帶ブ事少ナキモノ
ナリ

32

二、 林業ハ構造ヲ大トシテ經營スル方利益多キモ
ノナリ

三、 森林收入ハ勞働ノ結果タル事少クシテ多ク
ハ天惠物ニ出ヅルモノナリ

歐洲ニテハ市町村ニシテ廣大ナル山林ヲ有スルモノ
少ナカラズ佛國ノ市町村有山林ハ貳百万町ヲ超エ全
國總面積ノ百分ノ四ニ當レリ獨逸ニ於テ市町村有山
林ハ貳百万町ニシテ其外ニ此山林ト經濟上同性質
ナル組合所有山林三十五万町アリ此二種ノ山林ハ獨
逸全國面積ノ百分ノ四半ニ當リ總山林面積ノ二割六
分ニ居レリ

南獨逸ニテハ地方ニ依リ山林ノ殆ンド半部ハ市町村ノ所有タル所アリ然ルニ本邦ニ於テハ市町村ニシテ山林ヲ有スルモノ甚ダ少ナシ今ヨリ進ンデコレカ構成ヲ計劃シ同時ニ大字有山林ニ於テハ先ヅコレガ共同使用ヲ禁シ大字或ハ町村ノ殖利的財産ニ改メ大字及ビ町村ノ金庫ヲ利スベキ目的ヲ以テ管理セザルベカラズ

第三十八課 縣是トシテ森林ノ整理

農工水産等ノ盛衰ハ森林ノ興廢ト最モ密接ノ關係ヲ有ス蓋シ木材薪炭ノ供給裕カナラザレバ工業ノ發達ヲ期シ難ク薪炭ヲ廉價ニシ水害旱害霜害等ヲ除去ス

ルニアラザレバ農事ノ改良圖リ難ク沿海ノ山岳赤裸滌々タルニ於テハ水産ノ隆盛遂ニ見ル能ハザルベシ維新以後縣下ニ於ケル營林ノ法其宜シキヲ得ズ百年蓄積ノ林相漸ク亡失シテ四山概テ良材ヲ乱伐シ其荒廢年一年ニ甚ダシカラントス之ガタメ直接ニハ用材及ビ薪炭材ノ缺乏ヲ來タシ間接ニハ水源ヲ涸渴シ氣候ノ調和ヲ失シ其結果水害旱害霜害ヲ生シ或ハ水産ノ不振ヲ招キ或ハ風教ヲ害スル等其損害甚ダシトス現時スラ既ニ此ノ如シ況ンヤ人口益々増殖シ商工業發達シテ薪炭用材ノ需要年ヲ追ヒテ増加スルノ結果山林ノ乱伐更ニ今日ニ倍スル將來ニ於テチヤ本縣ニ

於ケル森林ノ整理一日モ緩フセザルモノアリ即チ今日ニ於ケル森林整理ノ事業ハ本縣々是トシテ價値アルハ言テ俟タズ加フルニ森林整理ノ事業ハ其物質トシテ

- 一、其結果タル利益ノ範圍廣大ナリ
- 二、其結果タル利益ノ大部ガ實行者外ノ他人ニ歸着ス

三、其結果タル利益ハ容易ニ見ルヲ得ス
 茲ヲ以テ其事業ハ他一般ノ農商工業ノ如ク一個人若クハ一小團體ヲ以テ到底實行シウベキモノニアラズ當然公力ヲ以テ勸奨保護ノ方法ヲ盡スベキモノニシ

テ若シユレナカラシカ其實行得テ見ルベカラザルモノナリ

山高故不費以木有爲貴 (實語教)

均シク市町村ナリト云ヘモ富裕ニシテ學識アルモノ多ク完全ナル森林家ヲ備ヒ得ルモノト貧困ニシテ公益ヲ謀ルニ暇アラザルモノトノ間ニハ政府ノ干渉ニ深淺アルベキハ自然ノ數ナリ貧村ニ必要ナル奨励ハ富村ノ爲メニ無用ノ干渉ニ屬スルモノ多カルベシ瑞四國ニ於テハ森林協會ヲ組織シテ森林警察ノ足ラサル所ヲ補フモノアルニ拘ハラズ「アツペンツェル」「センフ」「アラールス」「ツーク」等ノ諸郡ニ於テハ一人ノ森林家ヲ備使スルコトナシ (農業經濟論)

林業讀本終

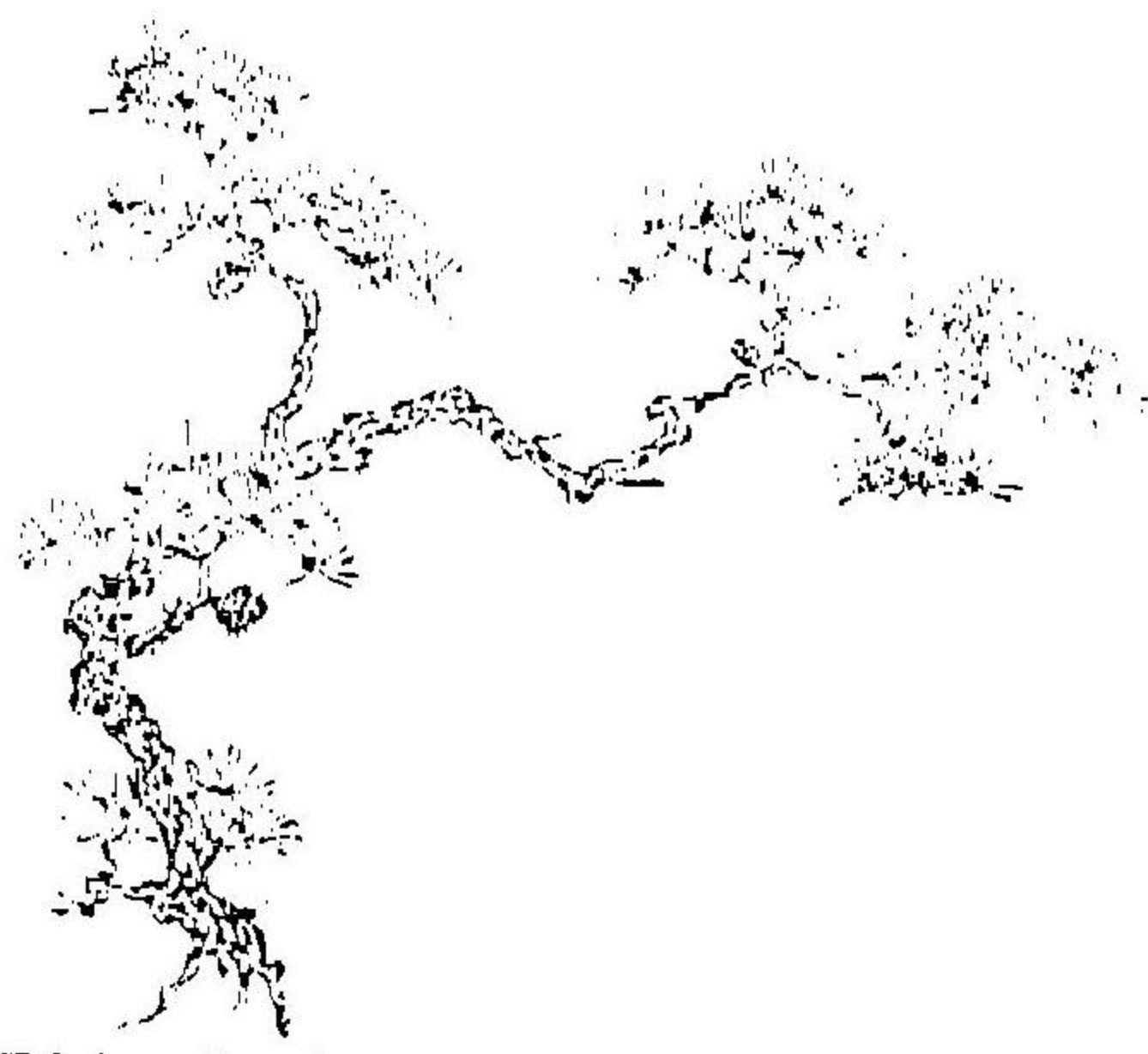


附

錄

林業年中行事

林業讀本終



林業年中行事

本林業年中行事ハ本邦中央氣候ニ於ケル地方ヲ標準トシテ編成セリ

一月

冬土用 十七日—二月四日立春マデ

小寒 一月五日—廿日舊十二月節寒氣ノ初節ニシテ「寒入り」ナリ陰曆十二月朔日ニ當リ

岸邊芽シ雄子鳴キ始ム

大寒 一月廿日—二月四日舊十二月中嚴冬ノ候ニシテ舊十二月中半マニシテ牝鷄集ニ就キ始メ歎冬ノ花開ク

(一) 伐木

此時ニ於テ盛ンニ伐木事業ヲ行フベキナリ東京近傍ニテハ十二月ヨリ引續キ薪炭材ヲ伐採ス之レヲ秋伐リト云○皆伐ニアリテハ單ニ其區域ノ外圍ニアル樹木ニ記號ヲ附スレバ可ナリト雖然ラザル場合ニアリテハ一木毎ニ必ズ記號ヲ附スベシ而シテ倒木ノ方向ハ成ル可ク他ノ樹木ニ害ヲ與ヘザル様ニス可ク傾斜地ニ在

リテハ決シテ之ヲ下方ニ倒ス可ラズ○櫟梢等ヲ伐採スルニハ斧又ハ鉈ヲ以テ根際ヨリ切斷シ其切リ口ハ少シク斜ニス可シ○成ル可ク暖カナル日ヲ撰ビ枝下ヲ行フ

(二)運搬 木材ヲ流失ノ恐レナキ場處ニ運搬スベシ○林道ノ妨害ヲナス岩石ヲ破壊ス○割材ヲ流送セントスル小川ノ近傍ニ運ブ

(三)副産物 林地ノ整理ヲナス○澱粉製造及紙漉業ヲナス○炭燒キヲナスニ最モ好時節トス○柎ヲ造ル○樟腦ヲ製ス

(四)保護 積雪ナキ地方ニ於テハ總テ害虫ノ卵ヲ採集シ又松毛虫ノ幼虫ヲ蘚苔中ニ搜索ス○松林ニテハ松毛虫ヲ防禦スルタメ「ペンキ」又ハ「鳥モチ」等ヲ塗抹スルノ準備トシテ其樹幹ニ目印シテ附ス○苗床ハ常ニ注意シテ兔、鼠ノ害ヲ防グ爲メ之ヲ毒害ス○盜伐ヲ注意スベシ

二月
立春 四月 十九日舊正月節春ノ氣立チ春季ノ初節ニシテ黃鳥鳴キ始ム

雨水 十九日 三月六日舊正月月中春暖加ハリ氷雪溶解シテ雨天トナリ草木發芽ノ氣ヲ催ス
節分 三日大寒中ニシテ明クレバ立春トナリ春ノ季節ナリ

(一)伐採 喬林矮林ノ冬期伐採ヲ引續キ施行ス○疎伐ヲ始ム○東京附近ニテハ盛ンニ薪炭材ヲ伐採ス又針葉樹ノ伐採ヲ始ム

(二)運搬 前月ニ引續キテ木材ヲ搬出ス○林道ヨリ破壊セシ石ヲ運ビ出ス○奥州地方ニテハ雪ニテ道ヲ作り橋ヲ用ユルヲ得○管流ヲナス管流トハ木材ヲ一本ツ、水ニ浮ベテ流スモノナリ

(三)植栽 天氣温暖ナル日ニハ土地ヲ耕鋤シ播種ノ準備ヲナス○櫟ノ採種シ仮植ヲナシ植付ノ豫備ヲナス○潤葉樹苗木ノ生長見込ミナキモノヲ抜キ取ル

(四)副産物 前月ノ事業ヲ引續キ行フ

(五)保護 松毛虫ノ蘚苔中ニ隠匿セルモノヲ搜索シ又松毛虫ヲ防グ爲メ「ペンキ」トリモチ」等ヲ塗リ始ム○兔、鼠ノ巢窟ヲ搜索シテ奇麗ニス○大ナル河川ノ沿岸地ニハ堰又ハ渠ヲ設置シ其後ハ度々巡視ス

○盜伐ヲ注意ス

三月

啓 六日—廿一日 舊二月節春暖益加ハリ蟄虫アララレ桃花開キ菜虫羽化ス
春分 廿一日—四月五日 舊二月中陰陽平等晝夜平分櫻花開キ春播種子ノ好下種期ナリ
春彼岸 十八日

(一) 伐採 矮林ノ冬期伐採ヲ了ハル○東京近傍ニテハ針葉樹及薪炭

林ヲ伐採ス又杉、扁柏等ノ疎伐ヲ行フ○根株ノ掘採ヲ始ム

(二) 運搬 木材ヲ運搬スルコト前月ノ如シ○筏ヲ編成スルコトヲ始

ム長材ノ筏ハ藤莖枝條又ハ丸太ニテ結合スルナリ歐洲ニテハ直徑

三分乃至二寸ノ唐檜ノ枝條ヲ用フルト云フ○此時ニハ出水スル

アレバ林道ニ注意ス可シ○青森秋田邊ニテハ橈ニテ搬出スルコト

ヲ得○管流及筏流ヲ施行ス○嶮岨ノ地ニアリテハ鐵索ヲ張リ之レ

ニ依リテ木材ヲ運搬ス

(三) 植栽 天氣穩ヤカナル日ニ於テ山地ニ植栽ヲ始ム而シテ最初ハ

闊葉樹ヨリ施行ス可シ即チ赤楊「シバグリ」ブナ「胡桃楡」シオデ「トチ」桂

「ホ、ノキ」クヌギ「カシ」ザク「梧桐」樟等ニシテ樟ノ植付ハ一坪ニ一

本或ヒハ七八尺四方ニ一本ツ、ニシテ苗木ハ土際ヨリ一寸程ヲ殘

シテ伐リ捨テ根部モ亦適宜ニ切り去リ植ルニアリ然ルトキハ根株

ヨリ五六本ノ芽ヲ出スモノナレバ凡ソ五六寸伸ビテ其成長速カナ

ルモノ一本ヲ殘シ余ハ皆ナ掻キ捨ツベシ○又針葉樹中赤松黒松等

ノ移植ヲ行フ○下旬ニ至レバ落葉松杉扁柏「ヒバ」アラ、ギ等ヲ植

栽ス之レヲ春植ト云フ○此月ノ中旬ニ至レバ九州地方ニテハ針葉

樹ヲ播種ス○苗床ノ準備ヲナス而シテ苗床ハ成ル可ク肥沃ノ地ヲ

撰ビ其巾三尺長サ六尺余ニ小區劃ヲナシ能ク耕鋤シ障害物ヲ除キ

去ルベシ○桑樹ノ接木摺條ヲナス○此月ノ中旬ヨリ桃櫻桃蓄蔽等

ノ接木ヲ施行ス○下旬ニ至レバ「チヅ」ヒバ「サワラ」ヒノキ「ビヤクシ

」杉其他圓蓋植物ノ挿木ヲ行フ○漆樹ヲ播種ス此春蒔キハ其年二

割位ヒ發芽シ餘ハ翌年四月發芽ス

(四) 保護 松毛虫樹木ニ昇リ始ムル故ニ「ベンキ」「トリモチ」等ヲ塗抹スルコトヲ急ギ一度塗ルモ若シ其効ナキトキハ又直チニ塗抹スベシ
 ○象鼻虫ヲ捕獲シ又被害木ヲ伐リ或ヒハ剝皮ス○象鼻虫ヲ捕獲スルニハ針葉樹ノ樹皮ヲ剝ギ巾六七寸長サ一尺乃至一尺五寸ニ切り内面ヲ下方ニ向ケテ新植地ニ散布スルトキハ之レニ集マリ來ルモノナレバ取り殺スベシ○盜伐及天氣ノ乾キシ日ハ火ヲ注意ス殊ニ草地ニ於テ然リトス○川岸ノ破損スルコトアリ注意ス可シ

四月

春土用 十七日—五月六日立春マア

瀧 明 五日—廿日 舊三月節枯落葉セル草木發芽シテ明ラカニ識別スルヲ得

穀 雨 廿日—五月六日 舊三月中春雨屢々來リテ百穀生化シ牡丹開花ス

(一) 伐採 高山ニ於テ夏季伐採ヲ始ム又矮林ヲ伐採ス○除伐及疎伐ヲ行フ○根株ヲ採掘ス

(二) 運搬 此時筏ヲ作ル○道路ノ修繕ヲナス○溝渠ヲ浚渫ス○管流

シ筏流シヲナス前月ノ如シ

(三) 植栽 此月中旬マデ梨李林檎梅栗等ノ接木ヲナス○桑茶其他果樹ヲ肥培ス○前月ニ引續キ針葉樹(即チ扁柏「チヅコ」ヒ「バ」花柏杉金松水松等)ノ山地移植ヲナス又小苗ハ床替ヘヲ爲ス○此時松ヲ植栽セントスレバ先ヅ採掘シテ仮植ヲナシ下旬ニ至リ新芽ノ稍々萌動スルヲ見テ始メテ山地ニ植ヘ而シテ堅ク根際ヲ踏壓シ幹部ニ土ノ覆ハザル様注意ス可シ○又樅ヲ栽植スル片ハ注意シテ根ヲ乾燥セシム可ラス總テ苗木ハ乾燥ノ恐レアル片ハ根部ヲ泥水ニ涵スルコトヲ忘ル可ラズ○苗床ヲ設置シ潤葉樹及針葉樹ヲ播種ス即ハチ「子ヅコ」「ヒ」「サ」「ワ」「ラ」「ニ」「ヒ」「ノ」「キ」「ス」「ギ」「ビ」「ヤ」「ク」「シ」「ン」「黒松赤松」「ヒメコマツ」「唐檜白檜落葉松」「ブナ」「ケヤキ」「ツゲ」「シオデ」「梧桐」等ニシテ次ギニハ金松樺赤楊「シデ」「胡桃」「ノ」「ブ」「ノ」「キ」「榆」「桂」等ナリ而シテ其種子小粒ニシテ飛散シ易キモノハ乾砂ト混合シテ下種シ粉末ニセル土ヲ薄ク篩ルヒ掛ケ其種子ノ隠蔽スルヲ度トス○此月中旬ニハ又「ホ」「ノ」「キ」「ツ」「バ」「キ」「キ」「ワ」「ダ」「ク」

スノキ」水松等ヲ播種ス之レヲ春蒔キト云フ而シテ樟ノ實ヲ蒔クニハ苗床ヲ作り人糞尿ト油粕トヲ混和シテ土ニ混シ其上ニ種實ヲ並列シテ土ヲ篩ヒ掛ケ鉄ノ平ニテ押シ付ケ又其上ニ藁ヲ覆ヒ小竹ヲ以テ押へ置ク可シ但シ藁ノ代リニ鋸屑ヲ用ルモ宜シ

(四) 副産物 放牧ヲナス場所ヲ調査ス○下草ヲ刈リ取ル區域ヲ定ム

(五) 保護 松毛虫ノ遅クシテ樹上ニ昇ルモノアルハ第三回「ペンキ」或ヒハ「トリモチ」ヲ塗抹ス○垣垣ヲ修繕ス○境界ヲ調査ス○苗木ノ凍死ノ爲メニ根株ノ浮出セルモノヲ踏壓ス可シ○針葉樹ノ苗床ニハ鳥除ケヲ設ケ又「モグラ」「ネヅミ」「ケラ」等ノ害ヲ防禦ス可シ○「モグラ」ノ害ヲ防グニハ苗床及其周圍ノ土中ニ昆虫類ノ棲息セザル様ニシ又通路ニハ係蹄ヲ設ケ或ヒハ苗床ノ周圍ニ表面ヨリ深ク土中マデ連續シテ針葉樹ノ枝葉ヲ埋メ置ク可シ○「ケラ」ヲ豫防スルニハ苗圃ノ周圍ニ凡八寸ノ巾及深サヲ有スル溝ヲ設ケ其底ノ處々ニ滑ラカナル植木鉢様ノモノヲ埋メ置クハ捕ニ得ベシ又苗床ニ馬糞ヲ埋

メ藁席ヲ以テ覆フ片ハ此中ニ集マルヲ以テ殺ス可シ○盜伐及火災ヲ注意ス

五月

立 夏 六日—廿一日 舊四月節夏ノ氣立テ蛙鳴キ蚯蚓地上ニ這ヒ出ツ

小 滿 廿一日—六月六日 舊四月中陽氣天地ニ滿チ草木繁茂シ萬物充滿スルノ初メナリ

八十八夜 二日立春ヨリ八十八夜ニ當リ屢々晚霜來リテ植物ノ新芽ヲ損害ス

(一) 伐採 高山ニテ夏季ノ伐採ヲ行フ○檜櫟等ノ剝皮林ヲ伐採ス但

シ東京近傍ニテハ通常八月ニ於テ伐採スレ共單寧ヲ製スルニハ春ニ於テ剝皮スルヲ可ナリト云フ○柳ノ萌芽ヲ刈リ取ル○東京近傍ニテハ薪炭林ノ伐採ヲ停止ス○木曾山林伐木ヲ始ム

(二) 運搬 矮林及下種伐ヨリ得タル木材ヲ搬出ス

(三) 植栽 潤葉樹及針葉樹ノ苗床ヲ造リ又植栽ノ事業ハ大概終結ス但シ東京近傍ニテハ此月ニ於テ檜類及樟ノ二年生ノ床替ヲナシ四

年生ヲ山地ニ植栽ス其法ハ先ツ假植ヲナシテ充分ニ灌水シ而シテ
二三週間ヲ經テ一度蒸縮セルモノ再ビ其芽強盛ナルニ及ンテ山地
ニ移ス○椿ノ床替ヲナシ又四年生ヲ山地ニ植ユ○苗床ヲ注意シテ
枯衰木ヲ抜キ去ル

(四) 副産物

炭燒終ル(獨乙國ニテハ此月ヨリ始ムト云本邦ニテモ山
間ノ地ハ猶炭燒等ヲ爲スアリ)草刈リヲ爲シ肥料トス(草肥ヲ施シタ
ル田畑ノ地力ハ草ニ合ミアル養料ノ割合ヲ以増スト雖其草ノ生シ
取リ去ラレタル地ハ取リ去ランクル丈ケ瘠スベシ某地方ニテハ唯
草刈ヲナスノミナラズ田ノ肥料ニ雜木ノ小枝ノ葉ノ付キタル儘施
スコアレ共林ヲ荒スコト實ニ甚シ)○筍發生ス即チ筍ハ地下莖(俗ニ
ムチト云)ヨリ生シ地上ニ現出シテ僅ニ四五十日ニシテ高サ及直徑
ノ生長ヲ完了シ其後ハ唯硬度ヲ増スノミナリ「スクリバー」氏曰ク地
下莖ノ強大ナルモノハ大筍ヲ生スト故ニ地下莖ハ之ヲ肥大セシメ
ザル可ラズ

(五) 保護

林地ノ下草ヲ蒞ル俗ニ之ヲ露蒞リト云蓋シ下蒞ハ林内ノ
荆蕪雜草ヲ蒞拂フテ苗木ノ生育ヲ扶ケ兼テ防火ノ用ヲナシ蒞拂ヒ
タル草類ハ其儘林内ニ散布腐朽セシメテ肥料ノ用ニ供スルモノニ
シテ恰モ農地ニ於テ肥培スルガ如シ○植栽後第一回ノ下蒞ハ苗木
漸ク根付キタルノミナレバ樹体矮小ニシテ動モスレバ雜草ノ下ニ
埋没セラル、ガ故ニ誤テ之ヲ蒞リ拂ハザル様注意ス可ク又可成的
充分ニ雜草ノ根株ヲ低ク蒞リ拂フ可シ○傾斜地ニ於ル下蒞ハ山麓
ヨリ蒞リ始メ山腹ヲ横ニ蒞リツ、漸次山頂ニ向テ蒞リ上ル可シ○
下蒞ハ普通ノ林地ニ於テ男一人一日ノ功程ヲ八畝步乃至一反步ト
ス其最モ困難ナル場所ニ於ケルモ五畝步以上ヲ蒞リ得可ク其平易
ナル場所ニ於テハ優ニ一反步以上ヲ蒞リ得ルモノナリ○梢端ニ又
ナル苗木アリタルキハ其強盛ナル梢ヲ殘シ他ヲ切り去リ以テ直幹
ヲ得ンコトヲカム可シ○下蒞ニ用エル鎌類ハ其大小形狀種々アリ其
良否如何ニ依リ頗ル功程ニ影響ヲ及ボスモノナレバ力メテ利器ヲ

掘ム可シ○針葉樹ノ苗床へ日除ケヲ設ク又灌水ヲ行フ○墻垣ヲ修理シ境界溝ヲ浚渫ヌ○杉檜ノ害虫發生ス○象鼻虫ヲ採集ス之レハ捕籠捕皮ヲ用フ○盜伐及野火ヲ注意ス即森林内及森林附近ニ於テハ凡テ火災ノ生シ易キ行爲ヲ禁止スベシ林内ニ於テ焚火ヲ爲シ或ハ燈火ヲ携帶スルガ如キ之レナリ西洋ニ於テハ蓋テ有セザル煙管ニテ喫煙シ或ハ卷煙草ヲ喫スルヲ禁セリ○森林或ハ原野ニ火入レヲ爲ストキハ森林警察上適當ノ設備ヲナス可シ我國森林火災ノ一大原因ハ實ニ此火入ニアリ○森林火災ノ發見者ハ直ニ之ヲ當局吏員ニ通報ス可シ火災ノ延燒ノ大ナラザルニ先ダチ消シ止ルヲ可トス○盜伐ヲ被リタルトキハ犯罪ノ器其共謀者等ノ有無ニ注意シ伐採ニハ槌印ヲ打チテ他ノ伐採ト區別シ檢證ニ便ニス可シ○濫リニ鋸斧ヲ帶ビテ他人ノ森林ニ入ルモノ、如キ最モ注意ス可ク又通路ニアラザル他人ノ森林ヲ通過スルモノニハ注意ス可シ

六月

入梅 十一日—七月二日梅雨ノ入りニシテ栗花開キ梅果黃熟ス

芒種 六日—廿二日舊五月節芒アル穀類即麥ノ收穫時ナリ螢出ツ

夏至 廿二日—七月七日舊五月中太陽夏至線上ニアリ夏日ノ長キ至リナリ

(一) 伐採

夏季ノ伐採ヲ連續シ及疎伐掃伐ヲ行フ○總テ森林ハ密植

シテ放棄スルトキハ其生長スルニ從ガヒ優勝劣敗ヲ生シ弱者ハ益衰へ遂ニ枯死スルニ至ルノミナラズ他ノ良木ヲ害スルコトアレバ劣者即チ被壓木ハ之ヲ伐採シテ森林ノ正整ヲ保チ且伐期前ニ多少ノ收入ヲ得ンガ爲メニ或ル年度毎ニ行フ所ノ伐木ヲ疎伐ト云フ但シ特ニ一二ノ林木ノ生長非常ニ盛ナルモノニアリテ他ノ數多ノ中庸ナル生長力ヲ有スル林木ヲ壓倒スル傾キアルルハ多數ノ利益ノ爲ニ其一二ノ優者ヲ伐採スベキハ勿論ナリ○掃伐トハ新林ヲ仕立テ終リシ後之レヲ整理センガ爲メ不用ノ林木ヲ伐採スルノ謂ヒニシテ新林ヲ害スル樹種又ハ目的外ノ樹種ヲ伐採スルヲ云フ○枯損

木ヲ伐採ス枯損木ハ害虫黴菌ノ發生ヲ媒介ス故ニ伐採シテ速カニ
林外ニ搬出ス可シ○根株ヲ掘採ス

(二)運搬 獨乙國ニテハ此月ヨリシテ木材ノ流出ヲ始ムト云フ然レ
共本邦ニテハ農業ノ盛時ニシテ殊ニ灌溉水ニ必要アレバ木材ノ川
下ゲヲ爲ス能ハズ○梅雨ノ候ナレバ霖雨ノタメ道路破損シ堤防破
壞スルコトアリ注意シテ修繕ス可シ

(三)植栽 常緑闊葉樹「ツバキ」「サカキ」「マサキ」等ノ挿木ヲ爲ス○挿木ハ
挿種ノ大サニ從テ挿條及挿幹ノ二ニ區別セラル挿條トハ普通ニサ
シキト稱スルモノニシテ一年生乃至三年生ノ枝ヲ六寸乃至一尺五
寸位ヒニ切り其先端ニ二三個ノ芽ヲ殘シ之ヲ地中ニ挿スモノトス
挿幹法トハ枝ニ代ルニ幹又ハ太キ枝ヲ用ルモノニシテ通常幹ノ上
部ノ直徑五分乃至二寸位ヒノ梢ヲ用ヒ之ヲ五尺乃至一丈ニ切り直
チニ山林ニ挿スモノトス之ハ主トシテ「ヤマナラシ」「ヤナギ」等ニ行ワ
ル○挿種ハ挿木ノ前ニ切り又ハ前年ノ秋ノ切りタルモノヲ束テテ

切り口ヲ水ニ浸シ置クカ又ハ濕地ニ挿シ置クモ可ナリ○又挿木ヲ
ナスニ粘土ニ少量ノ砂ヲ加ヘタル小土塊ニ穂ノ切り口ヲ砂ニテ包
ムガ如クニ挿ス可シ或ハ赤土ヲ能ク捨リ之ニ挿入シテ床場ニ挿ス
モアリ○此月上旬ニハ山櫻ノ實熟スルヲ以テ採集シ直ニ播種ス可
シ若シ種實乾燥スルハ發芽力ヲ失フ注意スベシ○漆樹ニ施肥シ
桑樹ノ刈リ込ミ取木及肥培ヲナス○取木トハ樹木ノ枝又ハ幼少ナ
ル幹ヲ地面上ニ屈曲セシメ之ニ土ヲ覆ヒテ根ヲ生ゼシメ然ル後チ
母樹ト分チテ造林ノ用ニ供スルナリ此法ハ總テノ闊葉樹ハ皆之レ
ヲ行フコトヲ得針葉樹ト云ヘ共松類ノ外挿木ニテ造林シ得ルモノ
ハ皆之ヲ行フヲ得ベシ

(四)保護 苗床ノ雜草ヲ除去ス○雜草ヲ除去スルタメニ苗木ヲ害セ
ザル様注意スベシ苗木間ノ草ヲ取ルトキハ必ず左手ニテ苗木ノ根
元ヲ抑ヘ右手ニテ草ヲ引キ抜ク可シ又溝中ノ雜草ハ鋏ヲ以テ之ヲ
削リ畦ノ横側ニ土ト共ニ押ヘ付ク可シ草取ニ人足一人一日ノ功程

ハ草ノ多少ニ依リ差アリト雖モ通常ノ草ナレバ一日二畝歩位
 ヒトス○苗木ノ發生良好ナラスシテ疎立ヲ其枝葉相密接セザル
 アルハ土中ノ水氣蒸散シテ乾燥甚ダシク又強雨ノ際ニハ土砂反
 挑シテ莖幹ニ附着シ苗木ノ生長ヲ害ス故ニ苗木疎立ナルハ藪ヲ
 五分位ヒニ切り之ヲ散布ス可シ○苗床ニアリテ其局部ニ團狀ヲナ
 シテ苗木ノ枯死スルコトアリ俗ニ蒸シ枯レト云フ是レ一種ノ立枯病
 ニシテ苗木ノ密生ニヨリ一種ノ菌ヲ生スルモノナリ故ニ蒸シ枯レ
 ノ現象アラバ直チニ其局部ニ石灰ヲ散布シテ土ヲ覆ヒ鋤ヲ以テ靜
 カニ掘り取り藪ヲ以テ蒸シ焼キニシ他ノ全面ニハ「ボルドー」液ヲ灌
 ギ消毒ス可シ○山地植樹ノ個處ヲ巡視シテ蔓草ヲ除ク○野火ヲ注
 意ス○松毛虫其他ノ害虫ヨリ傷害セラレシ樹木全ク其葉ヲ盡クル
 ニ至レハ之レニ附着セル仔虫ハ移轉スルモノナレバ其近傍ニ溝ヲ
 掘リ或ハ綠葉ノ附着セル枝ヲ放置シテ仔虫ヲ集殺スベシ○被害樹
 ニ「ペンキ」ヲ塗リテ下降スルコト能ハザラシメ或ハ樹木ヲ動搖シテ

落シ殺ス○草薙人ヲ注意ス○境界ヲ調査ス我國ニ於テハ雜草ノ發
 生旺盛ニシテ爲メニ境界線ノ不明ニ歸スルコト多キヲ以期日ヲ定
 メテ切り開キヲ行ヒ又ハ森林所有者ハ自己ノ森林ヲ視察シテ境界
 上ニ過誤ナキヤ否ヤヲ檢スベシ

七月

小暑 七日—廿三日 舊六月節 暑中ノ初節ニシテ蓮花開ク
 大暑 廿三日—八月八日 舊六月中暑氣最モ強ク桐雷ヲ結ビ驟雨時々來ル
 中夏生 二日「ハンゲシヨウ」ト稱スル草ノ葉頭白色ニ斑點ヲ現ハシ梅雨ノ候終リヲ示スモ
 ノナリ

(一) 伐採 夏季ノ伐採及疎伐掃伐ヲ施行シ又枯枝ヲ採ル○根株ヲ採
 掘スルコト前月ノ如シ

(二) 運搬 六月ニ於ケル如ク農業繁多ノ時ナレバ充分ニ運搬ヲ爲ス
 コト能ハズ即チ河水ノ不都合及ビ人夫ノ不足アリ○時々出水スル
 コトアレバ道路破損シ溝渠埋没スルコトアルヲ以テ修繕ス可シ

- (三) 植栽 秋季及翌春下種スル準備トシテ苗床ヲ耕鋤ス○堆肥ヲ製ス○桃李ノ芽接及切込ヲナス
- (四) 保護 害草ヲ除去シテ幼木ヲ保育ス即チ山地ニ於テハ「クマザサ」等ヲ刈リ取ル○火災ヲ注意シ又蟻害ヲ防禦スベシ○灌水或ハ排水ヲ行フ○境界並ニ區劃線ニ存生スル樹木ヲ調査ス

八月

立秋 八月八日—廿三日迄七月節秋ノ氣立チ涼風至リ寒蟬鳴キ深霧降ル
 處暑 八月廿三日—九月八日迄七月中暑氣正ニ處セントシ棉花開キ稻登熟ス

- (一) 伐採 夏季伐採又疎伐掃伐ヲ施行シ又枯損木ヲ伐リ出ス○根株ヲ掘採ス○前更新ニテ伐採スベキ樹木ヲ調査シテ極印ヲ附ス○東京近傍ニテハ剝皮林ヲ伐採スレ共之レハ春季ニ施行スルヲ可トス
- (二) 運搬 通常ハ農業ノ爲メ妨害ヲ受ク○道路ヲ修繕ス
- (三) 種實 此月上旬ニハ「ツグ」熟實ス實ハ指頭大ニシテ圓ク其先端三

- 角形ヲ爲ス初メ青色ナルモ熟スレバ黃褐色ニ變シ三裂シテ内ニ眞黑堅硬ナル種子六個ヲ有ス採集シタル片ハ箱又ハ袋ノ中ニ入レ一週間乾カシテ後貯フベシ○又中月ニ至レバ水松「シダレヤナギ」白楊桑楓等熟實スルヲ以テ採集ス可シ水松ノ實ハ赤色ヲ呈シ其味甘美ナリ之ヲ貯ルニハ採集後一週間水ニ浸シ肉ノ腐敗シタル后チ木片ニテ攪拌シ肉ヲ洗ヒ去リテ之ヲ乾燥シ後貯フ又桑ノ實ハ自然ニ落下シタルモノヲ袋ノ中ニ拾ヒ集メ木灰ヲ混シテ水中ニテ揉ミ其肉ヲ去リ之ヲ陰干シニシテ貯フ
- (四) 植栽 秋及翌春ニ設置ス可キ苗床ノ準備トシテ土地ヲ耕鋤ス○下種伐ノ準備ヲナス○此月ノ上旬ニハ蓄微ヲ接木シ又中旬ニハ水松ヲ播種ス○獨乙國ニテハ此月末ニハ高山ニ唐檜ヲ植栽スト云フ
 - (五) 保護 火災及盜伐ヲ注意ス○蟻害ヲ防ク○灌水或ハ排水ヲ行ヒ又ハ境界ヲ巡視ス

九月

二百十日 一日—十日立春ヨリ二百十日—廿日ニ相當ス霜登熟ノ候ナリ
白露 八日—廿三日舊八月節仲秋冷氣ヲ催シ露自ラ白ク燕南ニ歸ル
秋彼岸 二十日

秋分 廿三日—十月八日舊八月中陰陽平等晝夜平分草木枯穢シ水漸ク枯ル

(一) 伐木 前更新ニ於テ伐採ス可キ樹木ニ極印ヲ附ス○夏季ノ伐採

ヲ引續キ施行ス○根株ヲ採掘シ又ハ枯枝ヲ採集ス○竹林ヲ撰伐ス
○杞柳ヲ刈リ取ル

(二) 運搬 此時ニ筏流シニ便アリ○出水ノ爲メニ道路ノ破損スルコト
アリ注意シテ修繕スベシ

(三) 種實 此月中旬桂ノ實熟ス下旬ニ至レバ桐栗胡桃ノ實熟スルヲ
以採集スベク而シテ栗胡桃ノ實ハ宜ク之ヲ砂中ニ貯藏スベシ

(四) 植栽 來春播種ス可キ地所ノ準備ヲナス○下種伐ヲ爲スタメ土
地ヲ耕鋤ス○苗床ノ雜草ヲ除去ス○竹林ニ施肥ス肥料ハ硫酸質(稿
稈枯草等)ノモノヲ適當ニ施サル可ラス京都附近ニテハ人糞及糞

ヲ施肥ス而シテ人糞施肥ノ方法ハ落葉ヲ搔キ除ケ二尺隔テニ注キ
糞ハ人糞施用後數日ヲ經テ藪地一面ニ敷クモノトス○此月下旬ニ
ハ胡桃ヲ播種ス若シ種實乾燥スレバ發芽力ヲ失フ恐レアルヲ以テ
ナリ

(五) 副産物 漆液ヲ搔キ始ム○松茸「ハツダケ」シメヂ始メテ發生ス故

ニ採集ノ取締ヲ設ク可シ○牛馬ノ飼料ヲ採集シ得ル數量ヲ計算シ
テ其區劃ヲ定ム○枯枝ヲ採集ス○獨乙國ニテハ此月ニテ炭燒キヲ
停止スト云

(六) 保護 針葉樹苗圃ノ日除ヲ除去ス○牛馬ヲ放牧スルトキハ注意
ス可シ○盜伐野火ヲ注意ス○灌漑及排水事業ヲ施行ス○秋期ノ下
刈ヲ施行ス

十月

寒露 八日—廿四日舊九月節寒氣益加ハリ寒露下ル菊花開キ鴻雁北來ス

霜降 廿四日—十一月八日 舊九月中陽氣充テ寒氣ヲ増シ降霜期ニ達ス
秋土用 二十一日—十一月八日立冬マア

(一) 伐採

此時既ニ前更新ニ伐採スル樹木ノ調査終ル○薪炭材ノ伐採及豫備伐ヲ始ム○矮林及中林ノ下木ヲ採伐ス○疎伐ヲ行ヒ又立木ヲ取リ除ク○枝下ロシヲナス其方法ハ通例樹幹ニ沿フテ技ノ基部ヨリ伐ルモノトス而シテ之ヲ切ルニハ銳利ナル刀ニテ幹ト並行シテ垂直ニシ養分直ニ切り口ヲ養ヒ卷キ込ムヲ速カナラシム可シ大和吉野地方ニテハ「スギ」「ヒノキ」等ハ植付後八九年ヲ經テ二年若クハ三年毎ニ枝下シヲナシ廿年乃至廿五年以上ニ至レバ五年毎ニ之ヲ行フ大低鉈ヲ用ヒテ力枝以下ヲ切り取ルヲ常トス○此月下旬ヨリ纖維植物ヲ刈リ取ル

(二) 運搬

筏流シヲ行ヒ又薪炭材ヲ運搬ス○道路ノ修繕ヲ行フ

(三) 種實

此月中旬ニハ落葉松「アキニレ」柿「サハグルミ」ノ「ブノキ」「シオ」「ヒバ」「サワラ」「ヒノキ」杉松榧(若シ榧ノ種實ヲ貯ヘントスル片ハ採集

後直ニ水ニ浸シ一周間位ヒヲ經過シテ外皮ノ腐敗スルヲ待チ木片ニテ搗キ碎キ外皮ヲ去リ兩三日乾カス可シ「ウルシ」「ホ、ノキ」「イヌマキ」「柯樹樺赤楊」シ「デ」槐「コブシ」「ヤシヤブシ」(但シ「ヤシヤブシ」ノ實ハ單寧ヲ目的トスレバ九月下旬ニ採集ス可シ)ノ種實ヲ採集ス榧漆椿ノ種子ハ乾燥ヲ忌ム注意スベシ

(四) 植栽

此月下旬蒔薇ノ挿木ヲ行フ○落葉松柯樹榧「イヌマキ」「ツバキ」「ホ、ノキ」「ヤシヤブシ」等ノ秋期播種ヲナシ又唐檜樅白檜「イラモミ」等ノ秋期植栽ヲナス「アリ」○竹林ニ肥培ス

(五) 副産物

漆液ヲ搔キ取ル○漆及榧實ヨリ蠟ヲ製ス○果實及澱粉原料草類ヲ採集ス

(六) 保護

下柴ヲ刈リ始ム○鼠ノ苗床ヲ害スル「ア」ルヲ以之ヲ捕獲シ又ハ毒殺ス可シ燐亞硫酸「ストロリキニン」等有効ナリ此内「ストロリキニン」最モ劇毒ニシテ効用著ルシ亞硫酸モ○「五」グラムニ用ヒテ致死セシムルヲ得可シ而シテ之ヲ使用スルニハ蕎麥小麥粉胡麻等ヲ混

シテ此中ニ加ヘ小塊ヲ作り鼠ノ通路又ハ穴ニ置クナリ但シ「モグラ
ネヅミ」ハ鼠室扶斯菌ヲ用ヒテ驅除シ得可シ○此月下旬ニ至レバ寒
害ヲ恐ル苗床ニ霜除ケテ設ク其法ハ日除ケテ設ケタル反對ノ方向
即北方ヲ低ク南方ヲ高ク覆ヲ作ル可シ尤モ寒冷ノ地ニ於テハ此霜
除ケノ外ニ糶穀或ハ藁袴ヲ苗間又ハ苗床ニ散布シテ霜柱ヲ防グベ
シ○盜伐及火災ヲ注意ス

十一月

立冬 八日—廿二日 舊十月節冬ノ氣立チ山茶花開キ始メテ地凍リ始ム
小雪 廿二日—十七日 舊十月中寒氣強ク多少降雪アリ朔風落葉ヲ拂フ

(一) 伐採 皆伐前更新ノ冬期伐採ヲ施行ス但シ東京附近ニテハ薪炭
材ノ伐採ヲ始ム○此時ハ赤楊ヲ伐採シテ直ニ燃料トナスヲ得ベシ
○降霜ノ頃マデ疎伐ヲナスヲ得○下枝ヲ行フ○果樹桑類ノ苗木
ヲ掘採ス○初旬ヨリ楮ヲ刈リ取ル其法初年刈リハ土際四五寸其後

ハ四五分殘シ切り口ハ常ニ南面シテ且ツ滑カナルヲ要ス○雁皮ノ
幹徑一寸二三分ノモノヲ拔キ切りス

(二) 運搬 薪炭材ヲ搬出ス○散在セル枯損木ヲ堆積ス○木材ノ川下
ゲヲ施行ス○一般ニ築道事業終ハル

(三) 種實 此月ノ上旬ニハ「モチノキ」「ブナ」中旬ニハ金松「ネヅミサシ」「ビ
ヤクシ」「カシハ」「オホナラ」「クヌギ」樗類「クスノキ」柯樹「マテバシヒ」「アベ
マキ」「ケヤキ」等ノ種實成熟シ下旬ニ至レバ唐檜「モミ」梅「シラベ」公孫樹
朴樹「トチ」「ヌルデ」「ムクロジ」等ノ種實ヲ採集ス可シ但シ樗樗等ノ如キ
穀斗科ノ種實ハ乾燥スレバ發芽力ヲ減殺スルモノナレバ注意スベ
シ而シテ翌春マデ貯藏セントスレバ先ヅ種子ヲ水中ニ没シ其沈ミ
タルモノヲ採リ地ヲ畫シテ穴ヲ掘リ細砂ト共ニ種子ヲ埋メ或ハ桶
樽ノ如キモノニ細砂若クハ木炭末ヲ盛リテ其中ニ貯フ又タ公孫樹
ノ實ヲ貯ヘントスルハ一周間程水ニ浸タシ棒ニテ攪乱シ外皮ヲ
去リ乾カス可シ○樟實ヲ採集シタルハ直チニ土中ニ貯フ若シ他

ニ輸送セントスレバ之レヲ乾カス。大凡五周間其種子ノ表面ニ皺ヲ生スルヲ度トス又荒皮ヲ去ルニハ冬至後或ヒハ早春ノ候水ニ兩三日浸シ置キ能ク浸潤シタルモノヲ揉ミ剝グ可シ

(四) 植栽

諸果木ノ切り込ミ植付ヲナス。○樺ヲ掘採シテ假植ヲ行フ其法ハ溝ヲ東西ニ掘リ苗木ヲ枝ト枝ト相重ル位ヒニ一本ツ、斜ニ梢頭ヲ南ニ向ケテ列ラベ根ノ先端突キ曲レルヤ否ヲ檢シテ之レヲ直シ而ル后鋸ヲ以薄ク土ヲ掛ケ水ヲ灌グ可シ。○穀斗科樹木ノ種實ヲ播種ス其法ハ先ヅ種實ヲ桶内ニ入レテ后チ水ヲ注入シ浮ミタルモノヲ取リ一二周間ヲ經テ既定ノ地ニ下種ス又「クスノキ」「イテウ」ヲ播種ス此時ノ播種ヲ秋蒔キト云フ

(五) 副産物

落葉枯枝ヲ採集ス。○漆液ヲ搔キ取ル。○東京附近ニテハ下旬ヨリ炭燒キヲ始ム。○本邦古來ノ炭竈ヨリ木醋ヲ製スルヲ得。○推茸木ヲ伐採シ二周間乃至四周間以内ニ五尺位ヒニ切斷シ次デ鉈ヲ以互ノ目ニ刻ミヲ入レ適濕適蔭ノ地ニ枕木ヲ造リ之ニ口元ヲ

上ニシテ立テ掛ケ潤葉樹ノ枝ヲ以テ覆フ

(六) 保護

寒氣強クナルニ從ヒ松毛虫ノ幼虫隱匿スルモノアリ搜索シテ殺スベシ。○兎鼠ノ害ヲ防ク爲メ別ニ嫩葉等ノ食物ヲ與へ或ヒハ「ソナ」ヲ用ヒテ捕獲ス。○地方ニ依リテハ兎ノ害ヲ防ク爲メ動物質ノモノヲ燻燒シテ散布ス又石油ヲ浸シタル布片ヲ林地ノ周圍一ニ間毎ニ懸ケ置クモノアリ。○果樹ノ防寒ヲナス。○盜伐火災ヲ注意ス。○林中ニ流通セル小川ノ岸ヲ充分ニ修繕スベシ。○苗床ノ墻垣ヲ巡視ス

十二月

大雪 七日—廿二日 舊十一月節寒氣愈々強ク降雪盛ニシテ熊穴ニ蟄シ鮭魚群ヲナス
冬至 廿三日—一月五日 舊十一月中冬至線上ニアリ晝間最も短ク夜間最も長シ

(一) 伐採

伐木ヲ充分ニ施行スルヲ得。○建築材ヲ伐採ス。○下枝ヲ行フ。○薪炭材ヲ伐ル。○三種ヲ刈リ取ル之レニハ鎌ニテ滑ラカニス

1/37

ベシ但シ刈リ取リニ適スル幹ハ二三年ヲ經タルモノナリ

(二) 運搬 建築材及薪炭材ヲ搬出ス又前月ノ如ク川下ダヲ爲ス

(三) 種實 此月上旬ニハ「キワダ」ノ種實ヲ採集ス

(四) 植栽 茶柑類ニ肥養ス○竹林ニ澆水ス○「キワダ」ノ冬期播種ヲナス

(五) 副産物 紙ヲ澆キ又澱粉ヲ製造ス○炭燒業ヲナス

(六) 保護 松毛虫ノ冬籠リヲナスモノヲ捕殺スベシ其法ハ樹木ノ根元ニ近キ粗皮ヲ鎌ニテ剝キ取リ墊伏セル幼虫ヲ樹皮ト共ニ燒キ去ルベシ○盜伐及野火ノ注意ヲナス○兎鼠ノ害ヲ防グ前月ノ如シ○時々苗床ヲ巡視シテ諸害ノ注意ヲナス可シ

明治三十六年八月八日印刷
 明治三十六年八月十二日發行

正價金貳拾錢

編者 三溝 謹平

名古屋市東片端町甲七番戶

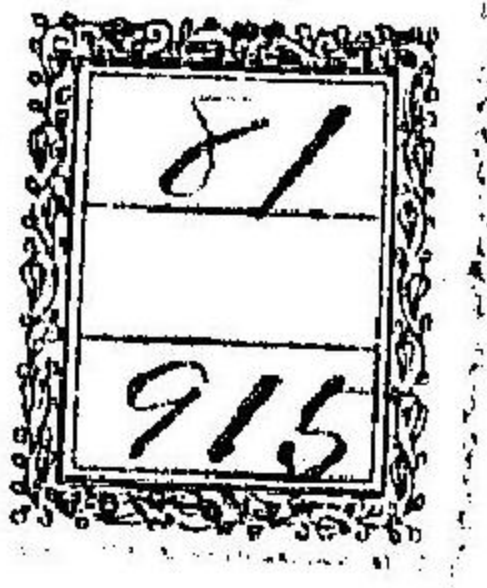
發行兼者 英比 貞造

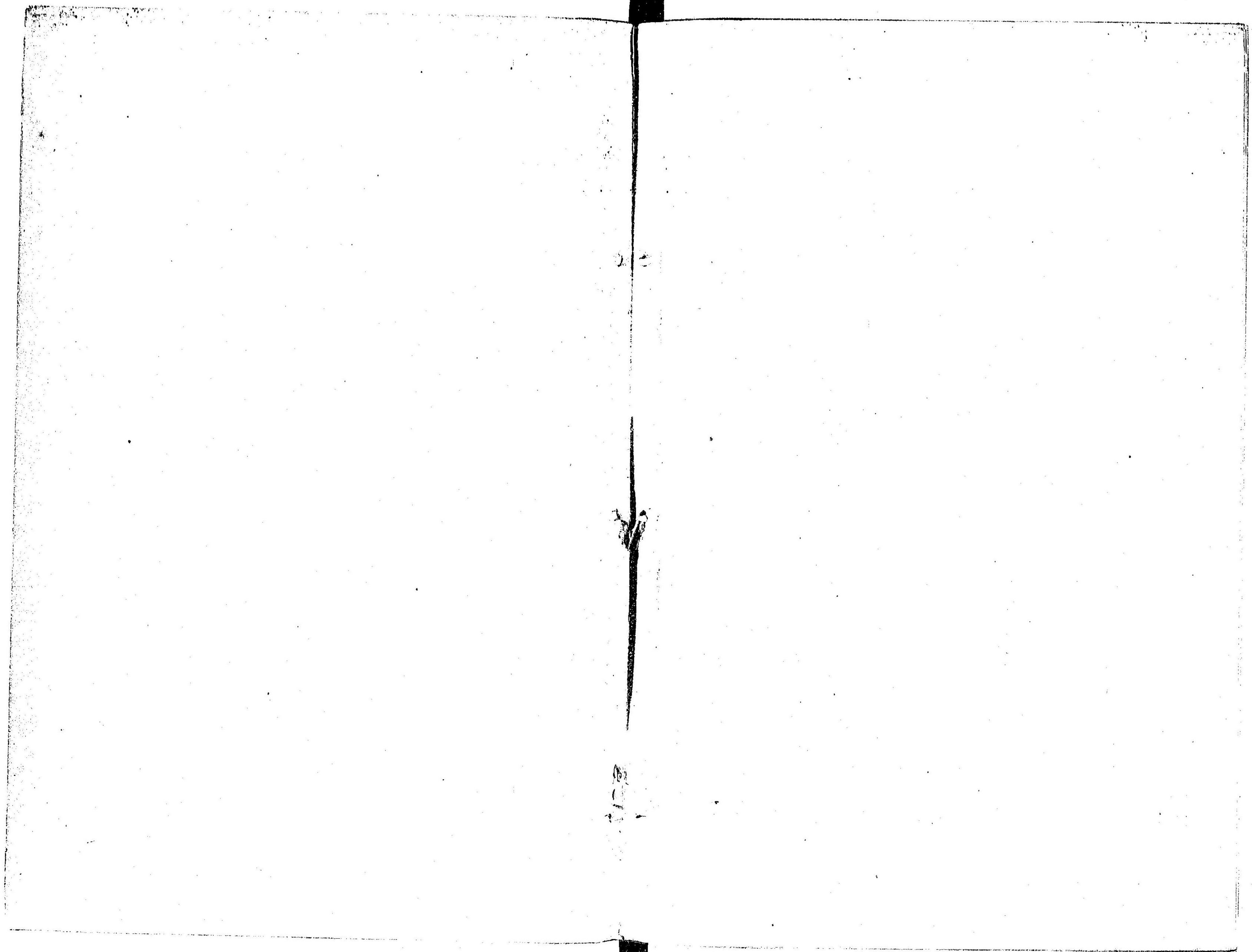
名古屋市榮町六丁目十一番地

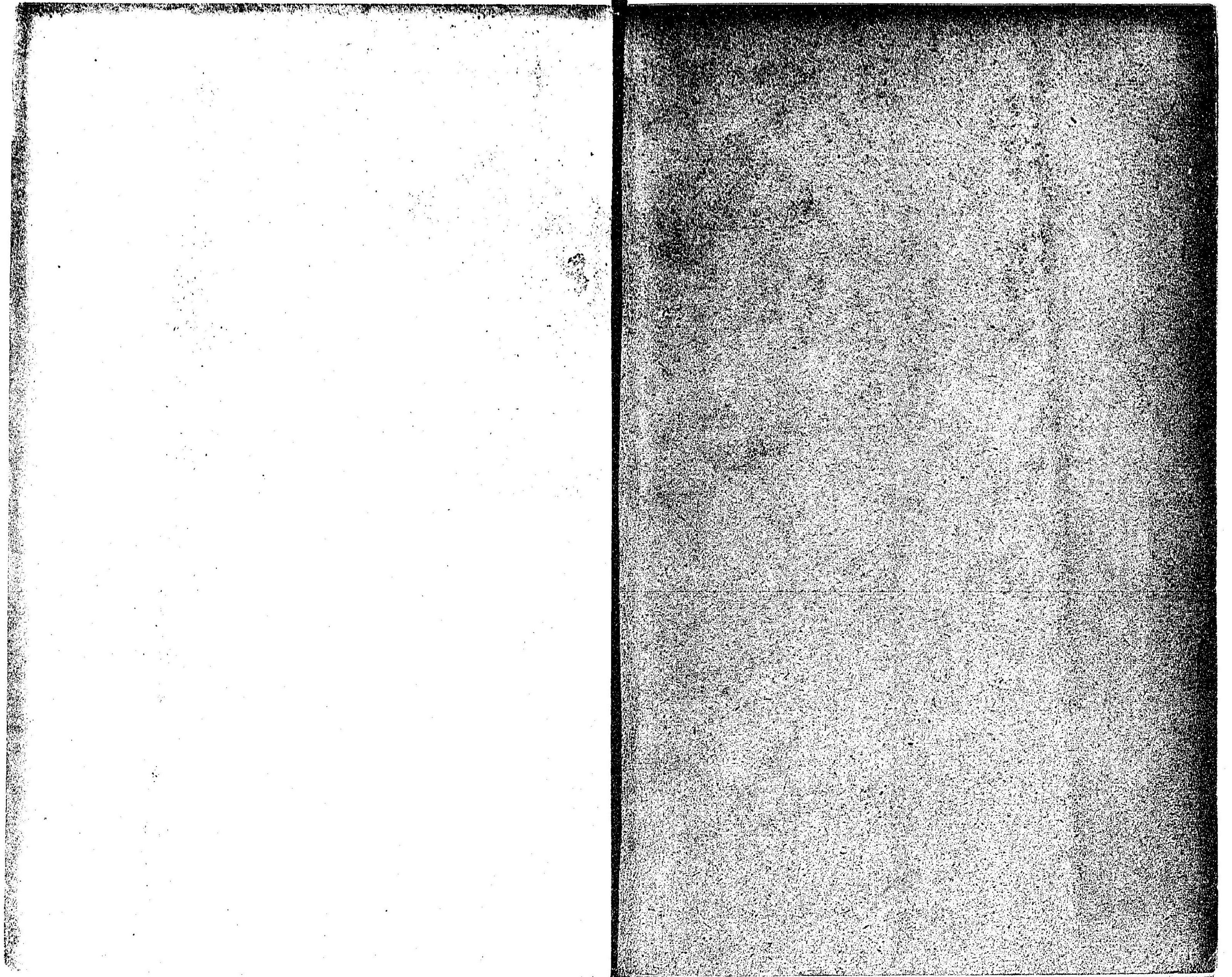
複製 不許

印刷所 扶桑新聞社

名古屋市榮町六丁目十一番地







1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025

81
915

林業讀本
全

065424-000-1

81-915

林業讀本

三溝 謹平/編

M36.8

CCE-0283

